

# 平成11年度埋蔵文化財 発掘調査報告書

## 市内遺跡確認調査

鳥屋野遺跡  
寺山遺跡  
西野遺跡  
猿ヶ馬場 A 遺跡  
東囲遺跡

2 0 0 0

新潟市教育委員会  
新 潟 市

# 例 言

- 1 本書は平成11年度に新潟市内で実施した遺跡の範囲確認調査等の報告書である。
- 2 調査は国庫及び県費の補助金交付を受けて、新潟市教育委員会が主体となり埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 調査で得た資料は、埋蔵文化財センターが一括して保管している。
- 4 参考・引用文献は巻末に一括して掲げた。
- 5 新卸売市場建設予定地関連の調査に際しては、甘粕 健（新潟大学名誉教授）・高濱 信行（新潟大学助教授）・川村 浩司（長岡工業高等専門学校教諭）・澤田 敦（新潟県教育庁文化行政課主任調査員）・小池 邦明（新潟市職員）各氏から貴重な御指導・御教示を賜った。厚く御礼申し上げる。
- 6 新卸売市場建設予定地試掘調査・東囲遺跡範囲確認調査・西野遺跡範囲確認等調査では有志の方々から協力をいただいた。
- 7 調査から本書の作成に至るまで、多くの方々・機関から指導・協力をいただいた。

# 目 次

I	平成11年度管内遺跡調査	1
II	烏屋野遺跡範囲確認調査	3
III	寺山遺跡範囲確認調査	6
IV-1	西野遺跡範囲確認調査	8
IV-2	西野遺跡範囲確認等調査	8
V-1	猿ヶ馬場A遺跡範囲確認調査	13
V-2	猿ヶ馬場A遺跡範囲確認調査	14
VI	新卸売市場建設予定地試掘調査	17
	東囲遺跡範囲確認調査	

## 調査体制

調査主体	新潟市教育委員会	教育長	石崎 海夫
総 括	総務局 国際文化部	歴史文化課	
		課長	南 憲一
		課長補佐	田中 純夫
	同企画・文化財係	係長	勝本 紀夫
事務局	埋蔵文化財センター	所長	細川 力
調査員	廣野 耕造	埋蔵文化財センター	主事
	諫山 えりか	同	上
	朝岡 政康	同	上
作業員	新卸売市場建設予定地試掘調査・東囲遺跡範囲確認調査		
	伊島 純孝・小泉 気美子・小山 淳治・小山 トミ・富岡 悌二・長谷川 勝		
	西野遺跡範囲確認等調査 小林 登・駒形 正明		

# I 平成11年度管内遺跡調査

## 1 管内調査概要

今年度は本格調査1件、範囲確認調査10件、試掘調査1件、立会い調査2件、計14件の調査を実施した。

**本格調査** 前田遺跡発掘調査（新潟市山崎1070番地ほか・7月～8月） 前田遺跡は県営かんがい排水事業（西蒲原排水2期地区）にともなう調査で、約1,400㎡を調査し、弥生時代から近世にわたる遺物が検出された。また平安時代と思われる遺構が検出された。

**範囲確認調査** 猿ヶ馬場A遺跡で遺物が、東囲遺跡で遺構・遺物が検出されたが、V-2章・VI章にその詳細について記した。また松山遺跡範囲確認調査の内容は『平成12年度埋蔵文化財発掘調査報告書』で報告する。

**立会い調査** 山木戸遺跡（遺跡周知範囲内）・鳥屋野遺跡（遺跡隣接地）について調査を行った。

件数	遺跡名（遺跡No.）	調査の種類	調査原因	調査期間	調査結果・取扱い
1	<small>まえだ</small> 前田遺跡（53）	本格調査	県営かんがい整備事業	7/1～8/31	弥生～近世にわたる遺物出土。古墳時代の遺物は今回の調査で初めて確認された。調査終了後、工事着工。
2	<small>とらやま</small> 鳥屋野遺跡（79）	確認調査	宅地造成	5/17・18	中世の遺物・遺物包含層検出。事業計画の内容から、遺跡に影響はないと判断。慎重工事。
3	新卸売市場建設予定地試掘調査	試掘調査	新卸売市場建設事業	6/8～15	市道建設部・工事中仮設道建設部の調査。古墳時代前期の遺物・遺物包含層検出。遺跡の新発見。
4	新卸売市場建設予定地試掘調査	試掘調査	新卸売市場建設事業	8/18～26	道路拡幅部の盛土工事に先立つ試掘調査。遺物・遺物包含層確認されず、工事着工。
5	<small>ひがしかい</small> 東囲遺跡範囲確認調査・新卸売市場建設予定地試掘調査	確認調査・試掘調査	新卸売市場建設事業	9/14～10/22	6月の調査で新発見された遺跡（東囲遺跡）の範囲確認調査及び事業予定地内の試掘調査。古墳時代前期の遺物・遺構（住居等）・遺物包含層確認。市道建設部約8,250㎡を平成12年度本格調査実施予定。
6	<small>てらやま</small> 寺山遺跡（20）	確認調査	賃貸住宅建設	9/30	遺物・遺物包含層全く検出されず、慎重工事。
7	<small>にし</small> 西野遺跡（38）	確認調査	送電線建て替え工事	10/7	遺物・遺物包含層全く検出されず、慎重工事。
8	<small>ざるがぼ</small> 猿ヶ馬場A遺跡（15）	確認調査	駐車場建設	10/19	遺物・遺物包含層全く検出されず、慎重工事。
9	猿ヶ馬場A遺跡（15）	確認調査	賃貸住宅建設	10/19	中世・近世の遺物検出。近世の遺構検出。事業内容から遺跡への影響はないと判断。慎重工事。
10	西野遺跡（38）	確認調査・試掘調査	県営ほ場整備事業	11/17～25	遺物・遺物包含層全く検出されず、慎重工事。
11	<small>まつやま</small> 松山遺跡	確認調査	個人住宅建設	3/17	近世陶器片が数点出土。事業には影響ないと判断、慎重工事
12	<small>やまきと</small> 山木戸遺跡（112）	立会い調査	個人住宅	5月	盛土後掘削工事。遺跡への影響はないと判断。
13	鳥屋野遺跡（79）	立会い調査	駐車場建設	7/16	砂利敷舗装。遺跡への影響はないと判断。

平成11年度管内調査概要（遺跡番号は第1図参照）



遺跡No	名称	時代	遺跡No	名称	時代	遺跡No	名称	時代	遺跡No	名称	時代	遺跡No	名称	時代	遺跡No	名称	時代
1	中山	縄文・古墳～平安	21	親仁山	平安・中世	41	大敷	奈良・平安	61	直り山B	平安	81	法華塚	江戸?	101	内野湯端B	中世
2	荒所A	縄文	22	向山	古墳?・平安	42	木山	平安・鎌倉	62	猿ヶ馬場B	鎌倉・室町・江戸	82	津島屋の石仏	南北朝	102	藤蔵新田	中世
3	六地山	弥生・奈良・平安・鎌倉	23	横山	平安	43	赤塚	古墳?	63	坂田	平安・中世	83	竹尾西	平安	103	原付	平安
4	神谷内	奈良・平安	24	上船橋	平安	44	土塚	中世?	64	上谷地A	平安	84	本所居館跡	室町	104		中世(古銭出土地)
5	東港太郎代	奈良・平安	25	鑿上山	平安	45	大藪塚	鎌倉・室町	65	病院脇	平安	85	石動	弥生・古墳・平安・中世	105		中世(古銭出土地)
6	新崎	縄文・平安	26	神中沢	中世	46	北山	平安	66	上谷地B	平安	86	下場	平安・中世	106		中世(古銭出土地)
7	笹山前	縄文前期～中世	27	赤塚神明社	平安	47	細山石仏	室町	67	沼	平安	87	江口館跡	不明	107		中世(古銭出土地)
8	茗荷谷	奈良・平安	28	城山	縄文・古墳・平安・鎌倉	48	北蒲原A	縄文・平安	68	欠番.No48内		88	小丸山	縄文・平安・中世・近世	108		
9	彦七山	奈良・平安	29	地蔵山	鎌倉・室町	49	石ナゲ山		69	欠番.No48内		89	茗荷谷基地	平安	109	岡山の石仏	中世
10	金塚山	奈良・平安	30	竹尾	中世	50	屋敷浦	弥生・奈良・平安	70	欠番.No71内		90	欠番.No13内	平安	110	松山	中世
11	前山	奈良・平安	31	古屋敷	室町・江戸	51	屋敷添	平安	71	北蒲原B	平安	91	清水が丘	平安	111	松山向山	平安
12	出山	奈良・平安・鎌倉・江戸	32	緒立城館跡	室町・安土桃山	52	高山		72	欠番.No71内		92	天道外	平安・中世	112	山木戸	古墳・平安・中世
13	丸山	平安	33	神山	縄文	53	前田	弥生～室町	73	荒所B	平安	93	女池稲荷	平安	113	的場	縄文晩期～中世
14	直り山A	平安	34	欠番.No31内	縄文・平安	54	茶畑	縄文・平安	74	ツル子A	平安	94	愛宕の塚	中・近世?	114	東田	縄文・古墳前期
15	猿ヶ馬場A	平安・室町	35	宮浦	平安・室町	55	ヤマサキ	縄文・弥生・中世	75	吹荒地	平安	95	石山の石仏	中世			
16	大淵	平安・中世	36	溜池	平安・中世	56	伝念野毛	鎌倉・室町	76	ツル子B	平安	96	沢田	中世			
17	居浦郷	平安	37	青山	平安	57	茨野根	奈良～室町	77	ツル子4	縄文・平安	97	前田	中世			
18	サン化学前	平安	38	西野	平安	58	木山墓所	縄文	78	欠番.No41内	中世(古銭出土地)	98	高山西	中世			
19	神明社裏	平安・中世	39	庚塚	平安	59	尼屋	鎌倉・室町	79	鳥屋野	中世	99	高下	中世・近世			
20	寺山	平安	40	親爺屋敷	平安	60	観音原	縄文	80	石仏山	中世	100	内野湯端A	中世			

第1図 遺跡の分布と地形概念図(1:151,500)



## Ⅱ 鳥屋野遺跡範囲確認調査

- 1 調査地 : 新潟市鳥屋野1丁目697-41ほか
- 2 調査期間 : 5月17日～18日
- 3 調査面積 : 調査対象面積 約1,744㎡ 調査面積 45㎡ (調査対象面積の約2.6%)
- 4 遺跡の概要と調査経過

### (1) 遺跡の概要と既往の調査

遺跡の概要 鳥屋野遺跡は昭和57年に周知化された遺跡で、中世から近世の陶磁器片や、土師質の土器細片が採集されている(文献1・7)。女池砂丘西端の砂丘列上に立地し(文献1)、推定面積は約4,700㎡である。

既往の調査 遺跡が周知化されて以来、当遺跡に係る調査は隣接地も含めて行われていない。

### (2) 調査に至る経緯

当該地(調査時は畑地)に宅地の造成計画があり、当該地が鳥屋野遺跡の周知範囲にかかること、建設予定構造物の土木工事が地下に及ぶことを踏まえ、遺跡の範囲・遺存状況・開発による遺跡への影響を確認するため調査を実施することとなった。

### (3) 調査の方法

1.5m×10mのトレンチを道路予定地、住宅予定地にかかるように5ヶ所設定した。各トレンチの調査には0.25㎡級のバックホウを使用し、基盤層が出るまでか、または崩落の危険を避けるため地表面から2mまでを限度として慎重に掘り下げた。掘り下げ終了後、記録作業を行った。

- 5 調査結果 土層の堆積状況は図3のとおりである。基本層序は盛土(耕土等)・粘土層・基盤層(砂丘形成層)から成り、2T及び4Tの腐食植物の混ざる黒褐色砂層(VIa層)から中世の陶器片(壺・すり鉢など)、木製品(時代・種別不明)が検出された。遺構はどのトレンチからも検出されなかった。調査地の現況はほぼ平坦な畑地であるが、基盤層の地形をみると南から北へ向かって落ち込んでいた。最高部と最低部の比高差は約1.5m以上を測るものと思われる。遺物包含層は基盤層が落ち込み始めているあたりから確認され、現地表面からの深度は約1.5m程であった。土層の堆積状況と遺物包含層の様子から、遺物はより高い箇所からの流れ込みの可能性もあると考えられる。

造成計画の内容と調査結果とを鑑みると、丁度宅地予定地に遺物包含層が認められる。宅地部分にかかる掘削工事は基礎・水道管等各配管工事であり、掘削深度も遺物包含層に達するものではないので遺物包含層が破壊されるおそれはない。道路(私道)部分には遺物包含層はほとんどかかっておらず、計画されている掘削工事(雨水枡・マンホールなど)も現地表面から最大でも1.1m程度である。今回の調査で当該調査地が鳥屋野遺跡の一部であることが確認されたが、開発によって遺跡が破壊されることが無いことも確認されたので、本格調査の実施は必要ないと判断された。

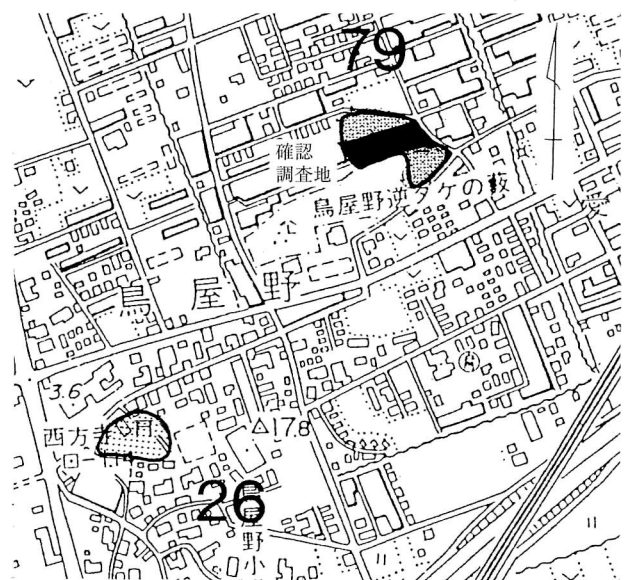


図1 遺跡周辺図 No.79が鳥屋野遺跡 (S = 1 / 7,500)

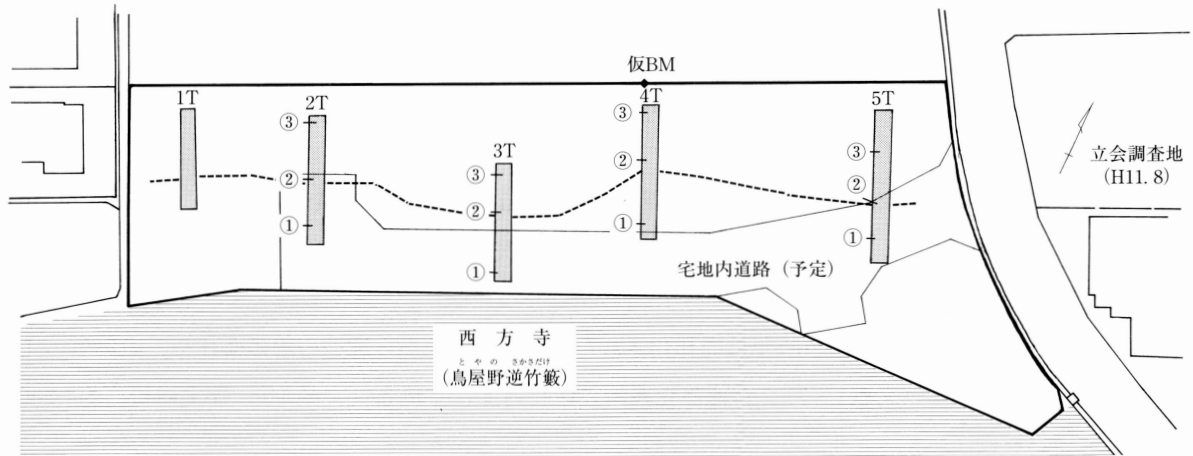


図2 トレンチ配置図 S = 1/700 (※) 破線より北側に遺物包含層が存在する

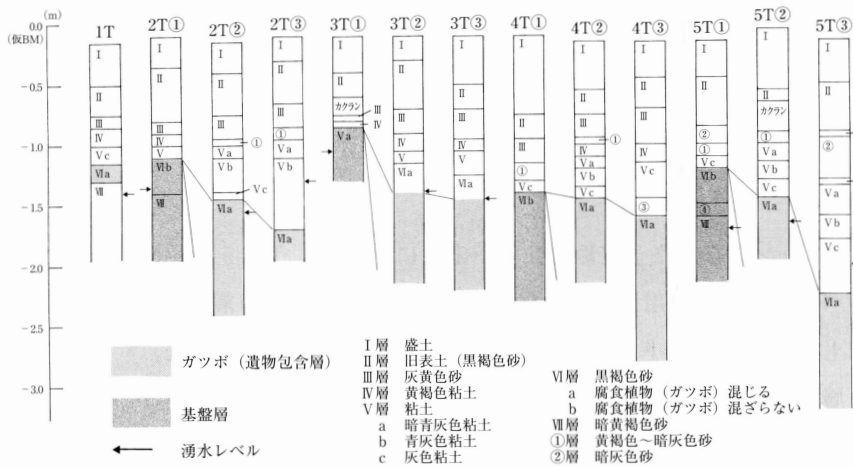
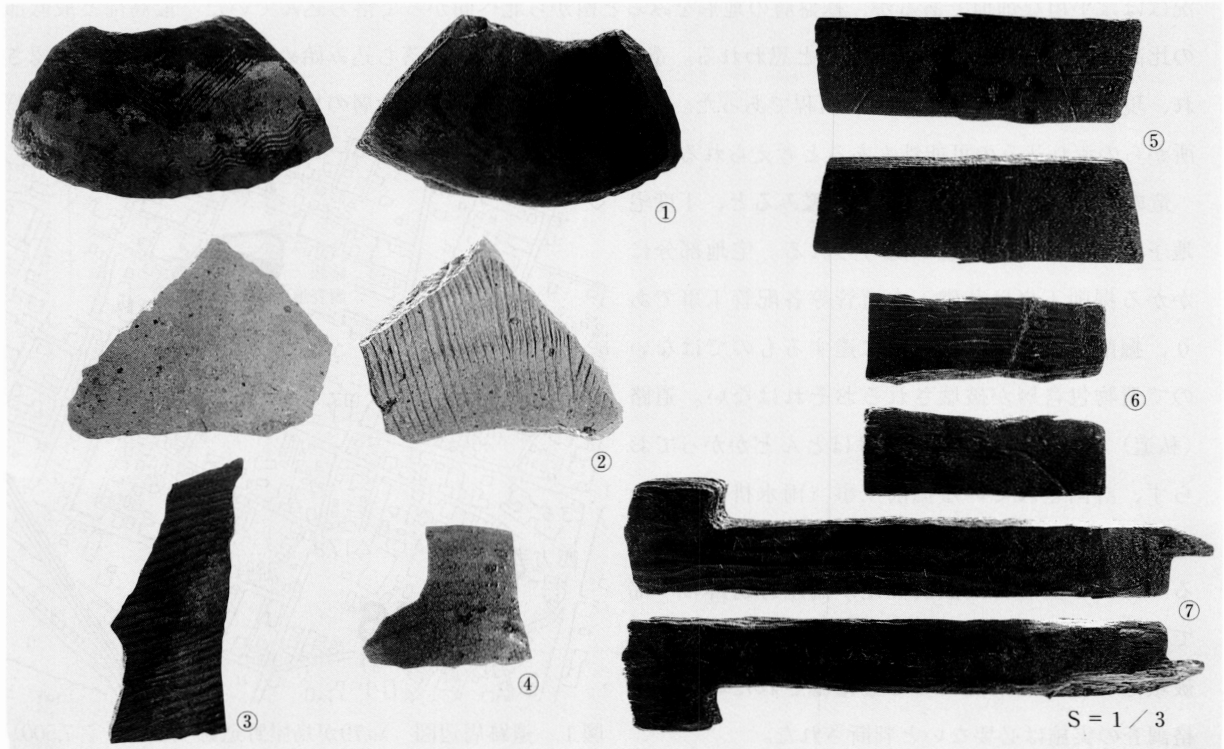
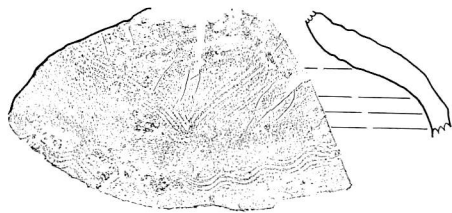
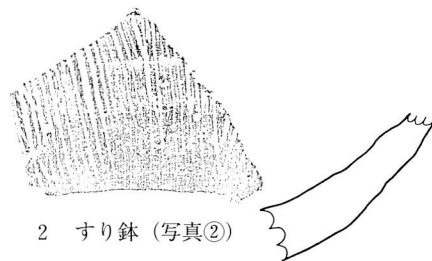


図3 土層柱状図





1 (写真①)



2 すり鉢 (写真②)

S = 1 / 3



調査地近景 (左に見える藪が鳥屋野逆竹 藪東から)



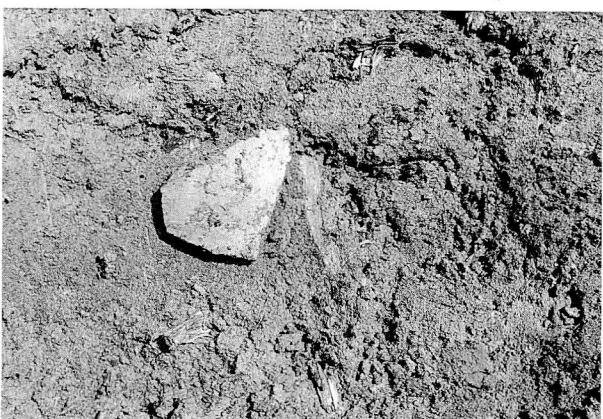
2 T 調査状況 (遺物出土トレンチ 南東から)



2 T 調査状況 (遺物出土トレンチ 南から)



4 T 木製品出土状況



4 T 播鉢出土状況



4 T③土層堆積状況 (東から)

### てら やま Ⅲ 寺山遺跡範囲確認調査

- 1 調査地 : 新潟市寺山1丁目882番1
- 2 調査期間 : 9月30日
- 3 調査面積 : 調査対象面積 395㎡ 調査面積 28㎡ (調査対象面積の約7.0%)
- 4 遺跡の概要と調査経過

#### (1) 遺跡の概要と既往の調査

**遺跡の概要** 寺山遺跡は、昭和48年に周知化された遺跡で、紫竹山砂丘（阿賀野川以東の新砂丘Ⅱ－3列に対比）に立地する（文献1）。推定面積は約6,900㎡である。

**既往の調査** 昭和53年と54年に遺跡の現状調査（文献2・3）、平成5年に分布調査が行われている。平成5年の分布調査では土師質土器の散布が確認されている（文献4）。

#### (2) 調査に至る経緯

当該地（調査時は畑地）に共同住宅を建設する計画があり、当該地の一部が寺山遺跡の周知範囲にかかること、建設予定構造物の土木工事が地下に及ぶことを踏まえ、遺跡の範囲・遺存状況・開発による遺跡への影響を確認するため調査を実施することとなった。

#### (3) 調査の方法

計画予定範囲のうち掘削工事が行われるところを中心に1m×7～10mのトレンチを3ヶ所設定した。各トレンチは0.1㎡級バックホウを使用し慎重に掘り下げた。掘削深度は湧水等の関係から1.2m程度にとどめた。

- 5 調査結果 土層の堆積状況は図2のとおりである。現地表面から約50～60cm下で基盤層（砂丘形成層）が確認された。遺物・遺構は全く検出されなかった。このことから、当該地が寺山遺跡の範囲には入らないこと、また開発による遺跡への影響がないことが確認された。

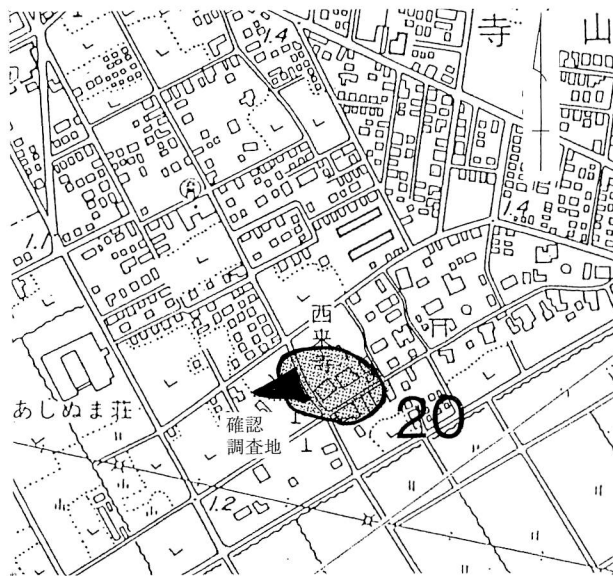


図1 遺跡周辺図 No.20が寺山遺跡 (S = 1 / 7,500)

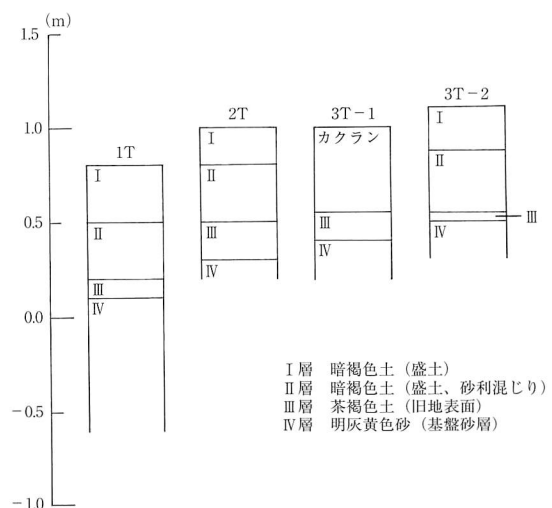


図2 土層柱状図



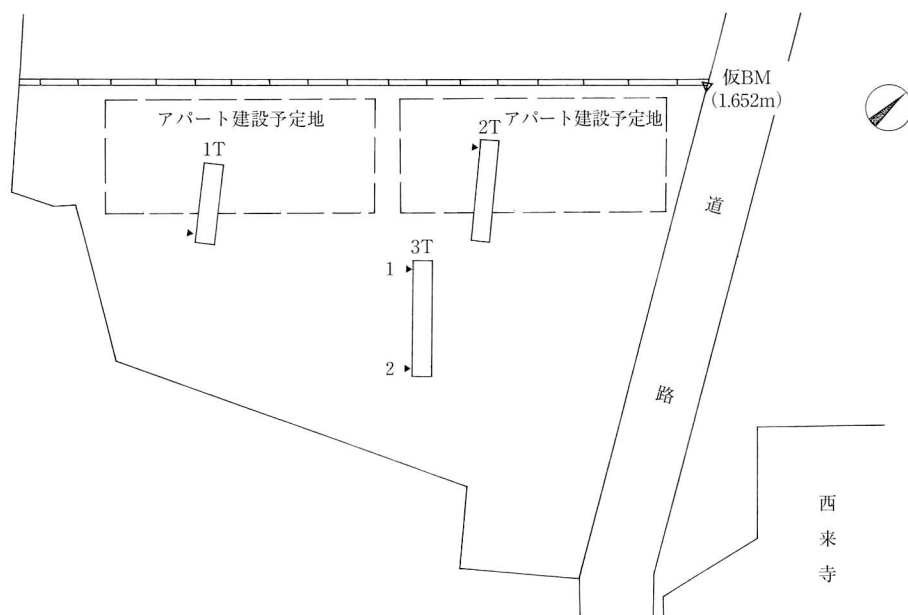


図3 トレンチ配置図 S = 1 / 600



調査区近景 (東から)



2 T 完掘状況 (南から)



3 T 完掘状況 (北から)



2 T 土層堆積状況 (東から)

## IV - 1 <sup>にしの</sup>西野遺跡範囲確認調査

- 1 調査地 : 新潟市西野字新通365番地ほか
- 2 調査期間 : 10月7日
- 3 調査面積 : 調査対象面積 49㎡ 調査面積 4㎡ (調査対象面積の8.2%)
- 4 遺跡の概要と調査経過

### (1) 遺跡の概要と既往の調査

遺跡の概要 西野遺跡は石山砂丘南方の自然堤防に立地する(文献1)。推定面積は約40,000㎡である。

既往の調査 昭和53年以降何度か分布調査が行われている。また平成10年に隣接地で範囲確認調査を行ったが遺構・遺物とも検出されていない(文献6)。

### (2) 調査に至る経緯

当該地に建つ東北電力の送電線鉄塔の改修工事に伴い、当該地が西野遺跡の周知範囲内であること、また工事で掘削工事が伴うことを踏まえ、遺跡の範囲・遺存状況・工事による遺跡への影響を確認するため調査を実施することとなった。

### (3) 調査の方法

計画予定範囲のうち掘削工事が行われるところを中心に1m×1mのトレンチを4ヶ所設定した。各トレンチは0.1㎡級バックホウを使用し慎重に掘り下げた。掘削深度は湧水等の関係から1.2m程度にとどめた。

- 5 調査結果 土層の堆積状況は図3のとおりである。調査したいずれのトレンチにおいても既設鉄塔を建設する際の掘削によるものと思われる攪乱が観察され、わずかに自然層が残存している部分(4T)でも遺構・遺物は検出されなかった。当該地は、遺跡の範囲内であったとしても、既設の鉄塔を建設する際、破壊されてしまった可能性がある。また当該地には遺跡が広がっていない可能性も考えられる。

## IV - 2 <sup>にしの</sup>西野遺跡範囲確認等調査

- 1 調査地 : 新潟市大淵字中沢海3136-1ほか
- 2 調査期間 : 11月17日~25日
- 3 調査面積 : 調査対象面積 約48.8ha 調査面積 約111㎡ (調査対象面積の約0.03%)
- 4 遺跡の概要と調査経過

### (1) 調査に至る経緯

大淵地区で県営ほ場整備事業計画があり、事業計画予定地が大規模であるため、西野遺跡に隣接していることや、6月及び9月~10月に当該地の近くで実施した試掘調査で遺跡が新発見されたこと(VI章参照、以下10月調査と略記)を考慮に入れると、工事中に遺跡が不時発見される可能性が考えられた。そこで西野遺跡の隣接部に関しては範囲確認調査を、その他の部分については試掘調査を実施し、遺跡の範囲や有無を把握する必要がある旨を事業主体である新潟県新潟農地事務所へ伝えた。このことを受けて、県農地事務所が窓口となり地権者、亀田郷土地改良区と新潟市との間で調査の具体的な方法について協議を行い、以下の条件下において調査を実施することで合意された。

①民地(田面)の調査は揚水機場建設予定地に限って行うこと。

②調査は農道部分に限って行うこと。また調査坑の数はできる限り減らすよう努力すること。

③調査後の埋め戻しはその後の利用に支障が出ないように、万全の埋め戻しを行うこと。

事業予定地の現況はほとんどが作付けを行っている水田であったため、水田部の調査は実施しなかった。調査対象面積に比べ調査面積が少ないのはかかる事情によるものである。

## (2) 調査の方法

調査は0.25㎡級のバックホウを使用し、農道部の調査では1.5m×2mのトレンチを34ヶ所、揚水機場建設予定地では同様の大きさのトレンチを3ヶ所設定した。掘削は基盤層が出るまでか、または崩落等の危険を避けるため地表面から2mを限度として慎重に掘り下げた。掘り下げに当たっては遺構・遺物の有無の確認に努め、掘り下げ終了後記録作業を行った。また調査が終わった場所から埋め戻しを行った。

## 5 調査結果とまとめ

調査結果 土層の堆積状況は図4～7のとおりである。31T・32T・33T・34Tにおいて10月調査時に確認された砂丘の一部を成すと考えられる砂層（黒褐色砂）が確認された。しかし10月調査地点に比べぐっと埋没しており、砂層が確認される高さで湧水が激しくなった。遺構・遺物は全てのトレンチにおいて全く検出されなかった。また土層の堆積状況はどのトレンチにおいても斉一性が認められ、後背湿地特有の厚い粘土・腐食植物層（いわゆるガツボ層）が確認された。また踏査も行ったが、遺物の散布は確認できなかった。

まとめ ほ場整備にかかる大まかな工事計画は以下の通りである。なお①～③の田面・農道・あぜ道は調査時の状況を示している。

①田 面：暗渠管敷設工事……………約7m間隔で暗渠管を布設。工事は幅40cm・深さ50cm～1m20cm程度掘削。

盛り土など……………全体的に10～15cm程度の削平、または盛り土をして田面を平らにする。

②農 道：既存農道（幅約3m）を拡幅。田面と農道の境に揚水管と配水管を布設。管工事は幅1m、深さ1m50cm程度の掘削。工事終了後砂利舗装をして農道として利用。

③あぜ道：既存あぜ道を盛土して拡幅。工事後農道として利用。

そこで工事による遺跡への影響を考えてみると、①については柱状図1～3、また他の調査箇所の見からも層序の斉一性が認められる。よって耕土の下には厚い粘土層・ガツボ層が存在すると考えられる。②については当該調査の結果から、地表面から2m程までは粘土・ガツボ層であるので遺跡の存在は考えにくい。仮にさらに下に遺跡が存在していたとしても当該事業によって遺跡が破壊されるおそれは全くない。③については柱状図1と平成10年12月に実施した確認調査の結果から、層序の斉一性が認められる。よって①同様耕土の下は粘土・ガツボ層が堆積していると考えられる。工事は盛土成形、舗装工事で掘削は伴わない。また揚水機場建設予定地は遺跡がないことが確認された。

当該調査によって遺跡が確認されなかったこと、また上記諸条件の下、仮に遺跡があったとしても当該事業による工事によって遺跡が破壊されるおそれがないことが確認された。

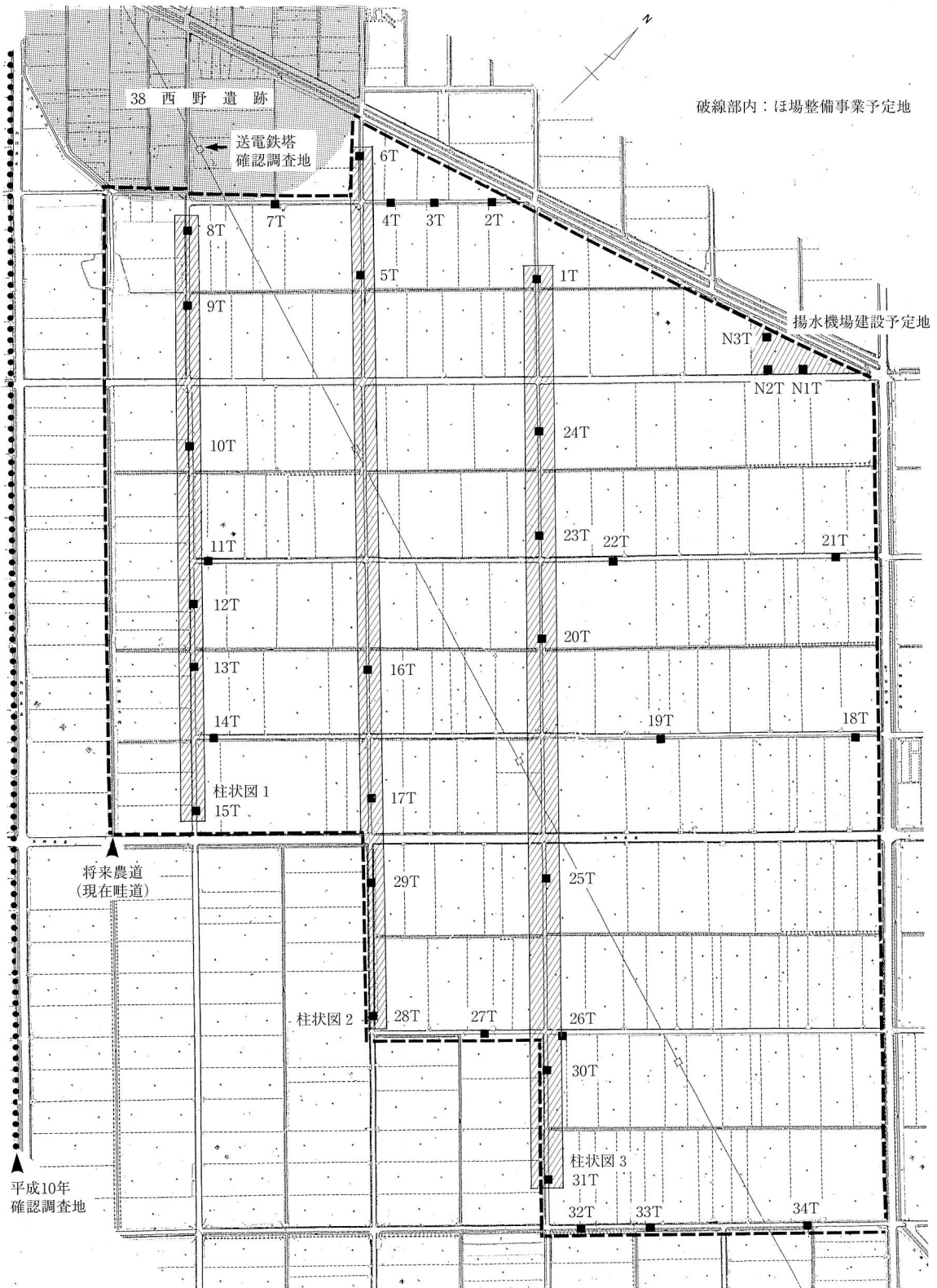


図1 西野地区確認等調査地トレンチ配置図 (S = 1 / 5,500)



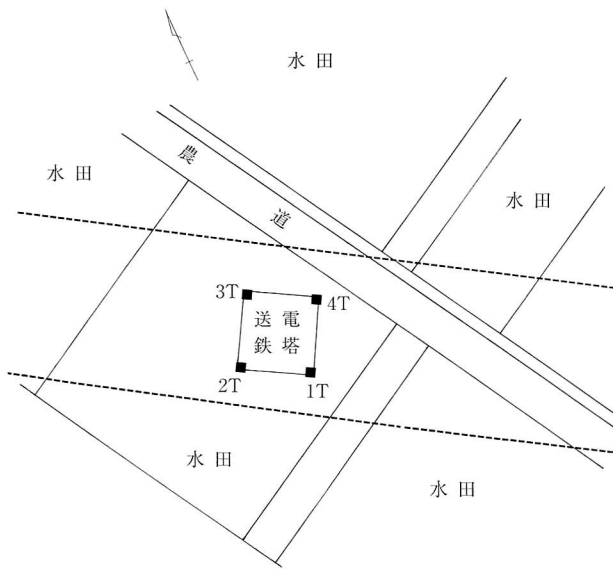


図2 トレンチ配置図 (S = 1 / 1,000) 破線部は送電線のライン

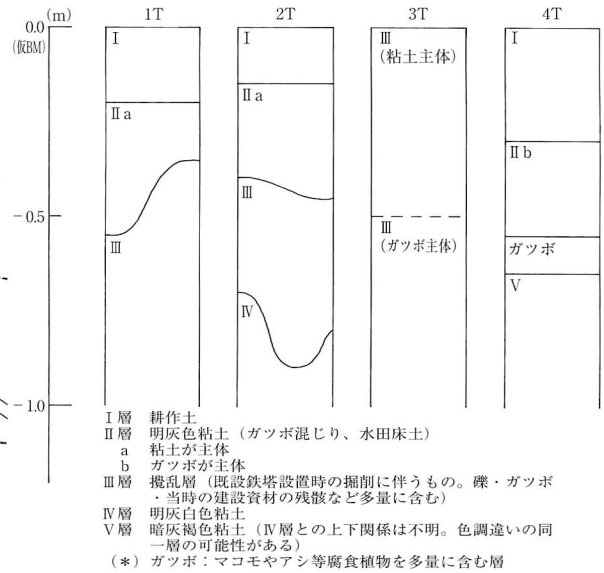


図3 土層柱状図

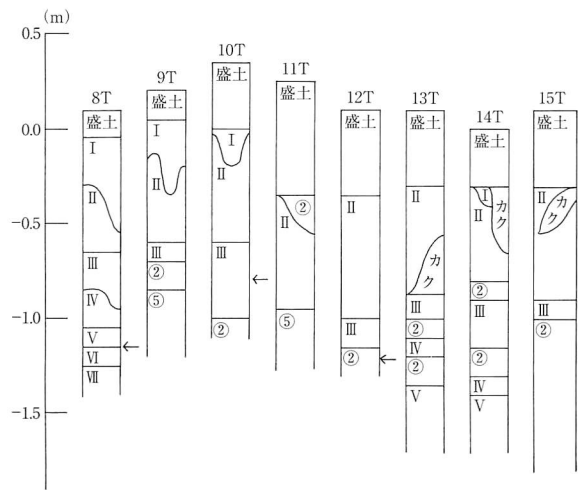


図4 土層柱状図1

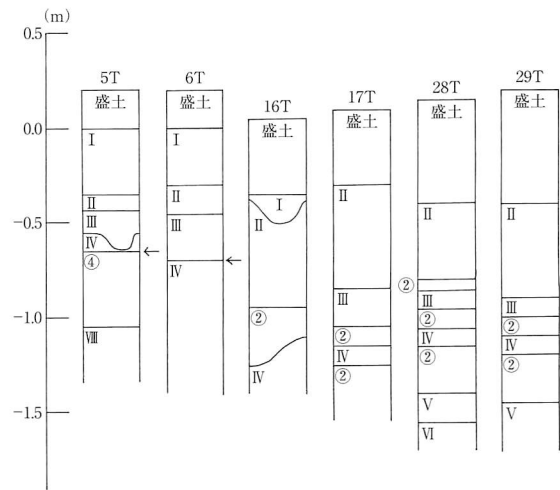


図5 土層柱状図2

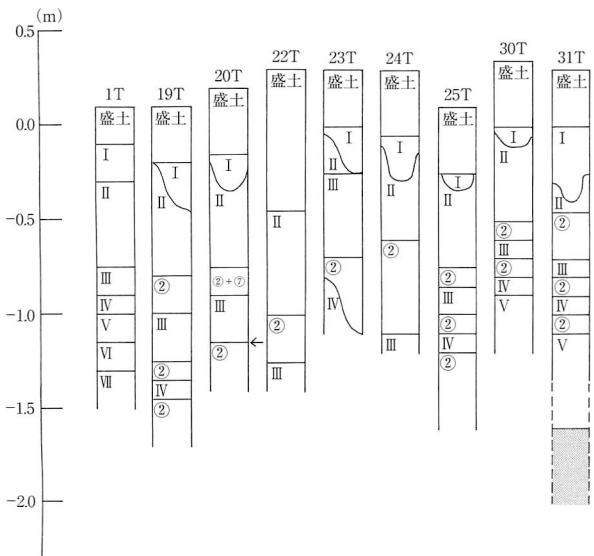


図6 土層柱状図3

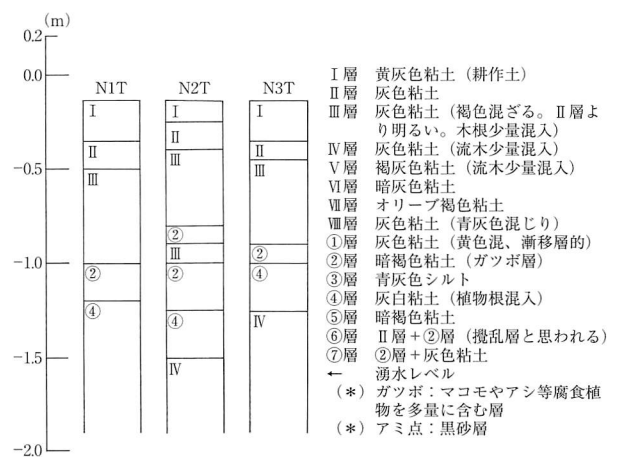


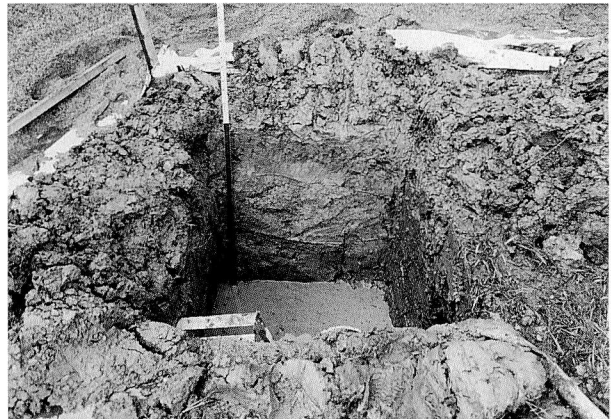
図7 土層柱状図 (揚水機場建設予定地)



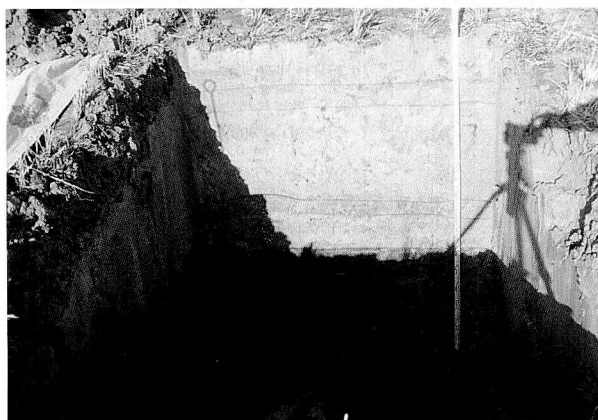
図8 茗荷谷周辺遺跡地図 No.38が西野遺跡 (S = 1 / 20,000)



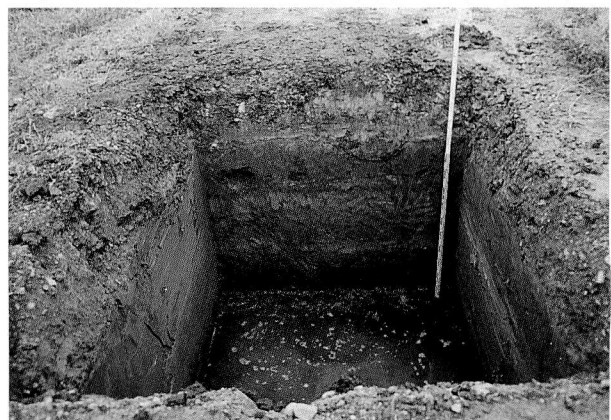
ほ場整備対象地 (34T付近から北西方向に撮影)



送電鉄塔関連調査 4T土層堆積状況 (南東から)



ほ場整備関連調査 N2T土層堆積状況 (南東から)



ほ場整備関連調査 33T土層堆積状況 (東から)

## V - 1 さるがほぼ 猿ヶ馬場 A 遺跡範囲確認調査 (調査地①)

- 1 調査地 : 新潟市東中野山 6 丁目 163 番 1 164 番 7 164 番 9
- 2 調査期間 : 10 月 19 日
- 3 調査面積 : 調査対象面積 78.58㎡ 調査面積 3.9㎡ (対象面積の約 5%)
- 4 遺跡の概要と調査経過

### (1) 遺跡の概要と既往の調査

遺跡の概要 猿ヶ馬場 A 遺跡は昭和 37 年度からの石山団地造成中に須恵器片、土師器片が出土したとの報告 (文献 7) や、昭和 54 年度の分布調査で中世のものと思われる遺物の散布が確認されている (文献 3)。石山砂丘 (阿賀野川以東の新砂丘 II - 2 列に対比) 砂丘列南斜面に立地し (文献 1)、推定範囲は約 5,600㎡である。

既往の調査 平成 9 年及び 10 年に隣接地にて範囲確認調査を行ったが、遺跡の広がりには確認されなかった (文献 5・6)。

### (2) 調査に至る経緯

当該地 (調査時は畑地) に露天駐車場を建設する計画があり、建設予定地の一部が猿ヶ馬場 A 遺跡の周知範囲にかかっていた。猿ヶ馬場 A 遺跡の周辺は石山団地造成以降宅地化が進み、遺跡の範囲や内容も分かりにくくなってきている。当該事業計画では畑地を整地しアスファルトを引く工事であるが、事業者には協力いただき遺跡の範囲確認調査を実施することになった。

### (3) 調査の方法

遺跡の周知範囲に 1 ケ所、その他の場所に 1 ケ所、1.5m × 1m のトレンチを設定した。各トレンチの調査には 0.25㎡級のバックホウを使用し、遺構・遺物の有無の確認に努めながら基盤層が出るまでか、または崩落の危険を避けるため地表面から 2 m までを限度として慎重に掘り下げた。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し記録にとどめた。

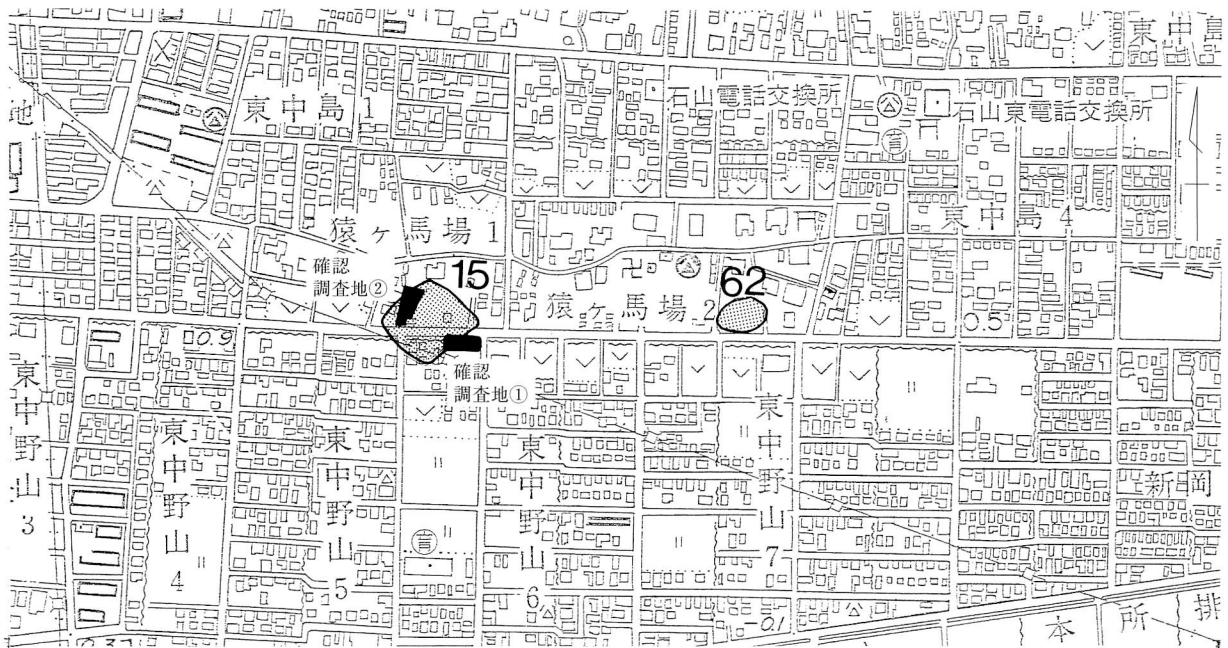


図 1 遺跡周辺図 No.15が猿ヶ馬場 A 遺跡 S = 1 / 7,500

- 5 調査結果 土層の堆積状況は図3のとおりである。遺構・遺物は全く検出されなかった。盛土が厚く堆積し、その下の自然堆積層を十分調査することができず、遺跡の範囲や内容について詳しい知見を得ることはできなかったが、遺跡の保護をする上で当該事業は全く問題ないことが確認された。

## V - 2 <sup>さるがばば</sup>猿ヶ馬場 A 遺跡範囲確認調査 (調査地②)

- 1 調査地 : 新潟市猿ヶ馬場1丁目404番3ほか  
2 調査期間 : 10月19日  
3 調査面積 : 調査対象面積 約541㎡ 調査面積 約6㎡ (調査対象面積の約1.1%)  
4 遺跡の概要と調査経過

### (1) 調査に至る経緯

当該地(調査時は畑地)に賃貸アパートを建設する計画があり、当該地が猿ヶ馬場A遺跡の周知範囲内であることや、建設に伴う土木工事が地下に及ぶため、遺跡の範囲・遺存状況・開発による遺跡への影響等を確認する調査を実施することとなった。

### (2) 調査の方法

賃貸アパート建設予定地を中心に1.6m×2.7mのトレンチと1.0m×1.6mのトレンチ、合わせて2ヶ所を任意に設定した。トレンチの調査には0.25㎡級のバックホウを使用し、10～20cmずつ土層を掘り下げ、遺構・遺物の有無の確認に努めた。掘り下げ深度は基盤層が確認されるまでか、または崩落等の危険を避けるため地表面から2mまでを限度とした。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

- 5 調査結果 土層の堆積状況は図5のとおりである。1 Tでは土坑と考えられる断面が3基分確認された。土坑の性格が不明であるためここではS X 1～3と呼ぶこととする。覆土は粘性が高く、しまりが強い暗灰褐色砂質土であった。覆土中から僅かであるが近世の陶器片が出土した。またⅡ層からは砥石が出土した。

2 Tは遺構は確認されなかったが、B層中から珠洲焼片が出土した。

## 6 まとめ

1 Tで検出された遺構は、出土遺物からみて近世の遺構と考えられる。砥石についても時代は不明であるが、1 Tで得られた所見からすると近世のものかと思われる。

2 Tでは珠洲焼片が出土したB層の下にⅢ層が堆積していた。Ⅲ層は1 Tの所見から近世以降の遺構確認面であるので、C層以上はそれ以降の2次的な堆積である可能性が高い。

当該事業計画では、事業地全体に20cm程度の盛り土をした上で基礎工事にあたり、25cm程度掘削をするということであるので、遺物包含層であるⅡ層及びB層は保護されることになる。従って当該事業に先立つ本格発掘調査は不要と判断された。またこれまでは伝聞や、遺物の表面採集でしか猿ヶ馬場A遺跡の様相を知ることができなかったが、この確認調査によって遺跡の様相の一端を知る所見を得ることができた。

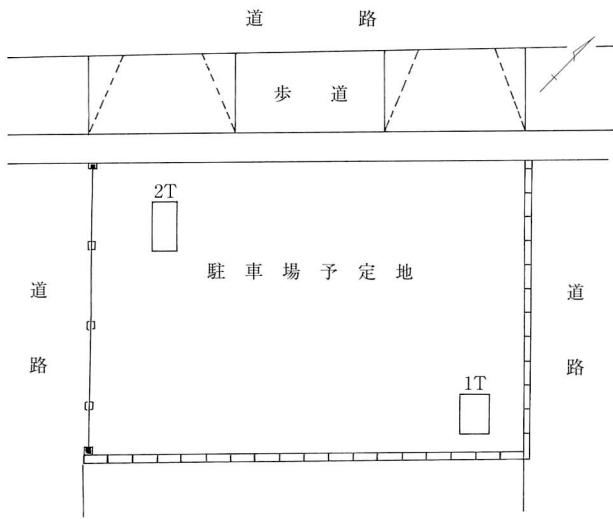


図2 調査地①トレンチ配置図 (S = 1 / 300)

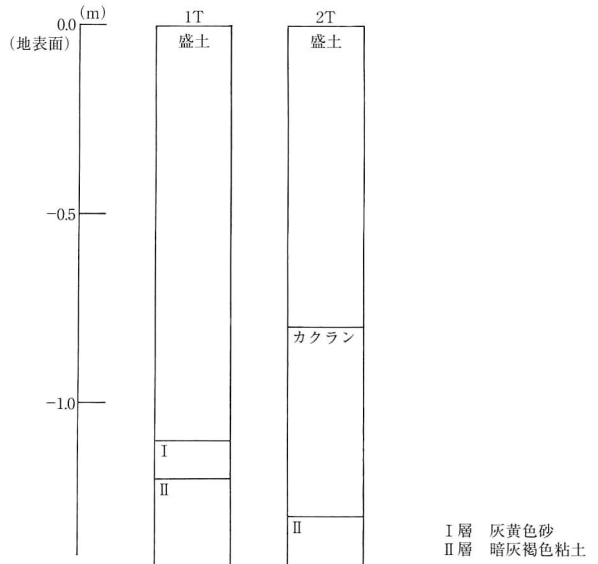


図3 調査地①土層柱状図

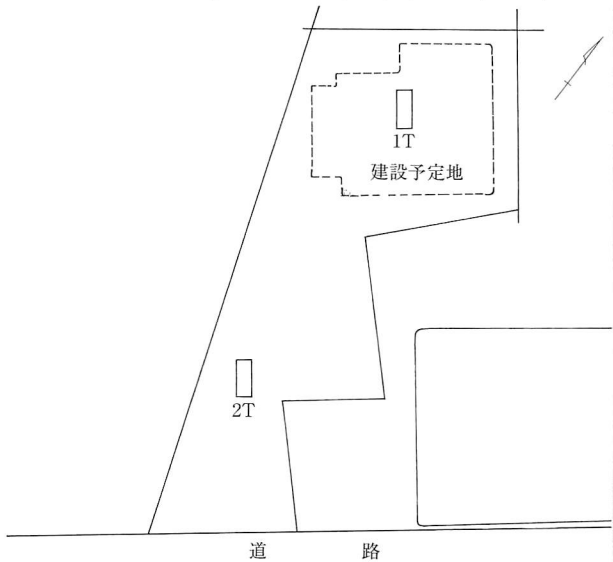
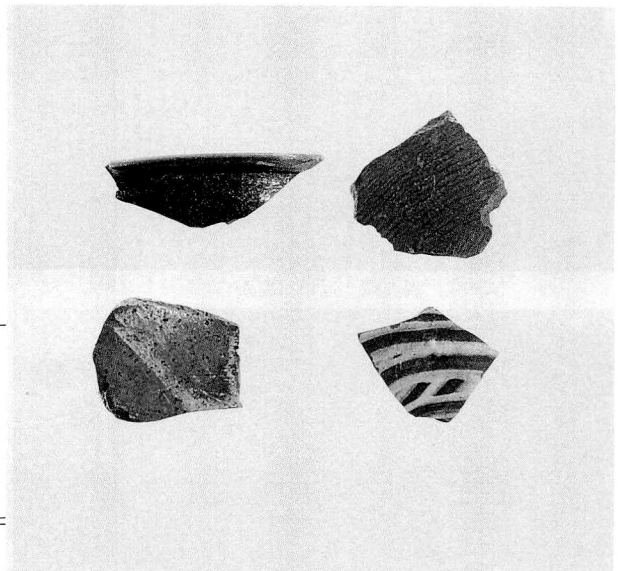


図4 調査地②トレンチ配置図 (S = 1 / 600)



調査地②遺物写真 (S = 約 1 / 3)

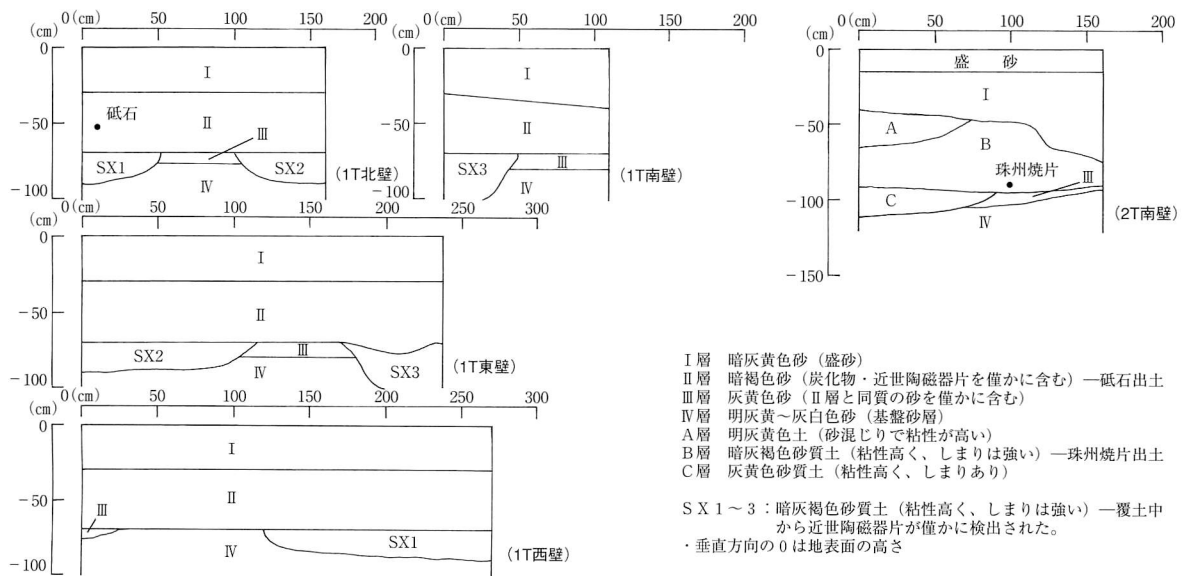
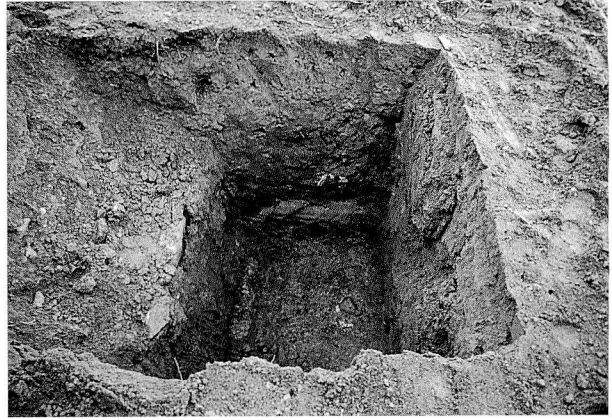


図5 調査地②土層柱状図 S = 1 / 80





調査地①遠景（北東から）



調査地① 1 T土層堆積状況（南から）



調査地②近景（南から）



調査地② 1 T北壁土層堆積状況



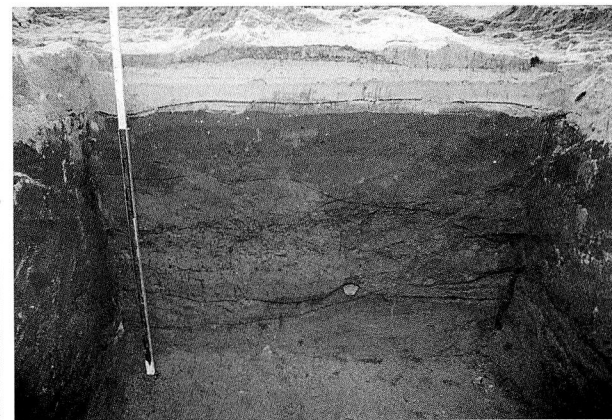
調査地② 1 T西壁土層堆積状況



調査地② 1 T東壁土層堆積状況



調査地② 1 T南壁土層堆積状況



調査地② 2 T土層堆積状況（北から）

## VI 新卸売市場建設予定地試掘調査 東<sup>ひがし</sup>圃<sup>かこい</sup>遺跡範囲確認調査

- 1 調査地 : 新潟市茗荷谷地内
- 2 調査期間 : 6月8日～15日・8月18日～26日・9月14日～10月22日
- 3 調査面積 : 調査対象面積 27.5ha 調査面積計 900㎡ (調査対象面積の約0.3%)
- 4 調査に至る経緯 新潟市教育委員会生涯学習課が開発関連部局等に送付した照会文(平成9年8月21日付け「平成10年度以降の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)とその隣接地における事業計画について(照会)」)に対し、平成9年9月12日付けで産業経済局農林水産部市場整備推進課より新潟市茗荷谷地区にて新卸売市場の建設計画がある旨の回答があった。これを受けて当該事業予定地を調べたところ、事業予定地及びその周辺に周知の遺跡は存在しないが、新潟市でも非常に遺跡の分布密度の高い地区であることと、開発面積が約32haと大規模であるため、埋蔵文化財の有無を確認する試掘調査を実施し、事業予定地にかかる埋蔵文化財の扱いについて協議する旨の意向を伝えた。市場整備推進課では試掘調査の実施については了解するもの実施時期については用地取得終了後が望ましいとの回答であった。用地取得は平成10年度中とのことであったので、平成10年に入ってから試掘調査の実施について具体的な協議に入った。協議により平成10年度中に調査を実施することが難しいようであったので、平成11年の早い段階で実施することで合意した。このことを受けて平成11年度の国県補助金の増額要求をして調査の実施に備えた。

平成11年に入り協議を再開したところ、市場整備推進課から造成工事に先行して盛土搬入仮設道及び用地内に建設される市道部分について夏ぐらいから工事を行いたいとの連絡があったので、6月に上記予定地の調査を実施することとなった。全体的な試掘調査は9月から10月にかけて行うこととなった。

- 5 調査の方法 調査は市場の造成計画に沿って6月(1期)、8月・9月～10月(2期)と2回に分けて行った。1期調査は仮設道及び市道建設予定地部分を、8月調査は道路拡幅に伴う盛土部分(図1のD区)を、2期調査は1期調査で新発見された遺跡(東圃遺跡)の範囲確認と対象地全域にわたる試掘調査とを行った。また2期調査では試掘坑の数が多くなるため便宜的にA～E区と地区割りをして試掘坑を設定し、調査をした。調査坑数はあわせて244ヶ所にのぼった。

調査には0.25㎡級のバックホウを使用し、遺構・遺物の有無の確認に努めながら慎重に掘り下げた。掘り下げ深度は基盤層(砂丘形成層)が確認されるまでか、または崩落等の危険を避けるため地表面から2mまでを限度とした。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

- 6 調査結果 トレンチの配置状況及び遺物出土状況は図1、土層の堆積状況は図2のとおりである。遺物包含層は黒色粘質砂でその下に灰色の粘土層がある。ただ、B5TやB9Tから出土した遺物の層位は他所と違い黒褐色砂層上面から出土した。灰色粘土層は存在しなかった。従ってB5T・B9T付近は黒褐色砂層が遺物包含層と考えられる。

当該調査対象地にはこれまで埋没砂丘は確認しておらず、新砂丘I-II間の後背湿地と考えられていたが、今回の調査で北側と南側でそれぞれ埋没砂丘と思われる砂盤が確認された。砂盤はおおよそ東西方向に走っており、北側はA区全域と遺跡の推定範囲部分、南側はE区とC・D区の境界付近一帯に確認された。北側の砂盤はHG1T付近を頂点(標高約-0.4m)に東西及び南北方向に緩やかに落ち込んでいた。南側の砂盤はC29T付近を頂点(標高約-0.7m)に東西及び南北方向に緩やかに落ち込んでいた。南側の砂盤の様相は北側の様相とほとんど同様であったが砂盤上には遺跡は確認されなかった。それぞれの砂盤には地震によ

る噴砂の痕跡が何カ所か確認された。また、上記のように報告した地形が本当に砂丘かどうかは今時調査が初見ということもあり断定的な判断は出来ない。新潟大学の高濱氏からは砂丘としては発達が不十分であるとの指摘を受けた。調査者が砂丘という認識で調査を進めたということ、他の砂丘上に立地する遺跡と様相が似ているので砂丘という表現を用いたが、遺跡の立地については来年度予定される本格調査で結論を得たいと思う。

**東園遺跡** 今回の調査で新発見された遺跡で、平成11年11月26日付埋文セ号外にて新潟県教育委員会に通知した。新潟市遺跡No.114。時代は出土遺物から古墳時代前期が中心である。縄文時代（中期？）の土器片もB6T・B27Tから合わせて4点出土している。

#### ①遺構各説

7-2T・HG1T・HG7T・B12T・C53Tで確認された。B12T・C53Tからはピット状のプランをそれぞれ1基確認した。HG7Tでは被熱により炭化した木片が1ヶ所に集中していた。土層断面からも平面プランからも遺構と思われる土質等の変化は確認されなかった。7-2Tは土器溜りと考えられる箇所が2ヶ所あり遺構として扱った。ピット2基・焼土がまとまっているピットを1基確認した。平面形の確認にとどめ、発掘調査は行わなかった。HG1Tでは竪穴住居（S11）が1基、性格不明遺構が4基（SX2～5）、土坑が2基（SK1・2）確認された。

S11：はじめは性格不明遺構（SX1）として調査していた。遺構確認面は水田耕土から約20cm下であったが、暗褐色砂上に黒いシミが広がっているかのような状況であった。遺物は細片でかなり出土していたが、住居と思われるプランの確認はできなかった。そこでベルトを設定して断ち割りを入れたが、層序の認識は困難を極めた。黒褐色砂（IX層）と暗褐色砂（4～7層）が似たような質でかつ連続して堆積しており、光彩の具合で同一に見えたためである。住居の掘り込みと思われる断面も不分明であったので分層した土層を順々に掘り下げていった。それでもまだ判断ができなかったためトレンチを拡大して調査に当たった。最終的に住居跡と判断したのは柱根が4本検出されたことに依拠する。住居の掘り込みは暗褐色砂上面（遺構確認面・Ⅷ①～Ⅷ②）から掘り込み、基盤砂層（黄褐色砂）まで達せずに基盤層上面の黒褐色砂上面（IX層）で終わっていた。住居と分かってからプランの確認に努めたが、全てを確認することはできなかったため、住居の規模は推定である。遺構確認面からの最大深度は約70cmであった。遺物は上層が最も多く出土し、下層に行くにしたがって減少していった。遺物の接合の結果上層と下層で接合するものもあり、土器の時期幅も狭いことから、この住居は比較的短い期間に営まれ、急速に埋没したものと思われる。また石製品を製作したと思われる緑色凝灰岩のチップが十数点検出された。確認調査としてはかなり規模の大きな調査になった。1期調査の結果を受けて事業課の方でも遺跡への対応は考えていたが、計画変更が出来ず、平成12年度に本格調査を実施することがほぼ見込まれたため調査経費等の積算をするためにもある程度の遺構調査をせざるを得なかった。しかし調査期間の都合から十分な調査が行えなかった。

SX2：これも平面プランの確認は困難であったが、断ち割った結果炭化物が椀状に堆積していることが確認できた。遺物がまとまって出土した。（No.⑱）

SX3・4：プランのみ確認。遺構（黒色粘質砂）上に土器片が出土していた。調査はしなかった。

SX5：土層断面では確認できるものの、平面プランを確認できたのは片側だけであった。断ち割りをしたが遺物は全く検出されなかった。

SK1：土坑。土層断面では確認できるが、平面プランの確認は困難であった。一部断ち割ったが遺物は全く検出されなかった。



SK2 : 黒シミ状のプランとして確認された。発掘したが、掘り込み等の跡は不分明であった。覆土は黒褐色砂の単層であった。遺物は全く検出されなかった。遺構ではない可能性がある。

## ②遺物各説

### 7-2 T土器溜り1 (①~③)

甕 (①・②) 口縁部は緩やかに外反し、口縁端部につまみ上げたような端面を持つものと丸く収めるものがある。器形は体部上半やや上方に最大径を持つ倒卵形になると思われる。体部は外面、内面ともハケ調整を施す。口縁部は外面、内面ともナデを施すものとハケを施すものがある。体部外面には煤が付着する。

器台 (③) 小型の器台。受部の口縁端部に面を持つ。脚部中位に三方から入る透かし孔を持つ。外面、内面ともミガキを施す。

### 7-2 T土器溜り2 (④~⑨)

小型鉢 (④・⑦) 底部は丸底を呈すと思われる。倒卵形の体部に直線的にのびる口縁を持つ。外面、内面ともハケ調整の後ミガキが施される。

甕 (⑤・⑥) 大きく外反する口縁を持つ。口縁端部は丸く収める。最大径を口縁部を持つ。体部は外面、内面ともハケを施す。口縁部は外面はナデしており、内面はハケの後ヘラミガキを施す。外面、内面ともかなり黒変している。器壁は薄く焼成良好である。⑥は口縁端部につまみ上げたような面を持つ。

### S11 (⑩~⑬)

壺 (⑩) 外反気味に長くのびる口縁を持つ。体部の形は不明。外面はヘラミガキの後赤彩を施す。内面はハケの後ヘラミガキを行う。口縁上方に赤彩を施す。

小型鉢 (⑪) つまみ上げたような短い口縁を持つ。体部中位に最大径を持ち、球胴形になると思われる。口縁部はナデ、体部は外面内面ともハケを施すが、内面はハケの後少しミガキを施す。

壺 (⑫) 有段口縁の壺。外面はミガキの後赤彩を施す。内面は丁寧なナデを施す。精品である。

高坏 (⑬) 坏部欠損。脚部中位やや上方に三方から入る透かし孔を持つ。外面はヘラミガキの後赤彩される。内面はハケの後器面を整える程度にヘラミガキを施す。

器台 (⑭) 小型の器台。内外面に赤彩を施す。脚部中位に三方から入る透かし孔を持つ。

甕 (⑮・⑯) 緩やかに外反する短い口縁を持つ。口縁端部に面を持つ。口縁部に最大径を持つ。口縁部は外面、内面ともナデを施す。体部外面はハケ、内面はナデを施す。⑯の口縁部は直線的にのび、口縁端部は丸く収めている。

### HG1 T包含層 (⑰~⑳)

壺 (⑰・㉓) ⑰は内湾気味に長くのびる口縁を持つ。外面、内面ともヘラミガキを施すが、内面にはハケメが残る。㉓は有段口縁の壺。口縁端部に面を持ち、口縁有段部下端は垂下している。作りは粗い。外面、内面ともヘラミガキを施す。また特に内面は、被熱によると思われる器面の剥離が著しく見られる。

高坏 (⑱) 高坏の坏部と思われるが、鉢もしくは台付鉢の可能性もある。椀形の浅い坏底部に外反しながらのびる口縁部を持つ。外面屈曲部に稜線を持ち、内面も同様の位置に稜線を持つ。器壁は薄く、外面、内面とも丁寧なヘラミガキを施す。外面、内面とも赤彩をしているがかなり落ちている。

甕 (⑳・㉑・㉕・㉖) ㉑は緩やかに外反する短い口縁を持つ。口縁端部に面を持つ。口縁部は外面、内面ともナデ、体部外面はハケ、内面はハケの後ナデを施す。㉒は外反する口縁部を持つ。口縁端部を少しつまみ上げている。口縁端部は面を持ち、ハケを施す。外面は口縁部から頸部にかけてナデを施し、内面はハケを施す。外面にはハケの後の観察できる。㉕は壺の可能性はある。㉖は頸部で屈曲し、外反する口縁で口縁

端部に面を持つ。体部から底部にかけて外面、内面ともハケを施し、口縁部は外面、内面ともナデを施す。

鉢(22) ほぼ完存。椀形の体部に外反する短い口縁を持つ。底部は痕跡程度に接地面を持つが、丸底である。調整は外面、内面ともハケを基本とし口縁部外面はナデ、体部内面は丁寧なナデを施す。煤等は付着していないが、全体的に特に体部内面は黒変している。

器台(24) 脚部中位やや上方に三方からはいる透かし孔を持つ。脚部外面はヘラミガキを施し、脚部内面はハケの後ナデを施す。

S X 2 (17) 体部から頸部にかけて緩やかに屈曲し、口縁部は直立気味にのびて上方で外反する。口縁端部は摘み上げたような狭い面を持つ。口縁部から体部にかけて内面・外面ともハケ調整を施す。

#### C 1 3 T 包含層

甕(27) 外反する口縁を持つ。口縁端部はつまみ上げたような面を持つ。口縁部は外面、内面ともナデを施すが、外面にはナデた時についたと思われる稜線がある。体部は外面、内面ともハケを施す。

#### 7-2 T 包含層出土(28)

甕と思われるが、ヘラ状の工具で口縁端部を外側へ折り曲げ注口状を呈する。細片なので意図的な調整なのかどうか不明である。ただし口縁端部のこの部分は粘土紐を一段加えてあり、特徴的である。

遺物観察表

凡例

1. 番号は図版番号と一致する。
2. 法量の項目は、口=口縁部径・底=底部径・高=器高・受=受部口縁部径・脚底=脚部底部径を表す。( )内の数字は推定値。
3. 胎土の項目は、胎土に含まれる鉱物などの観察結果である。海針=海綿骨針を表す。(細)=1~3mm大・(中)=3~5mm大のものである。粒子=観察では特定できなかった含有物である。
4. 色調の項目は、農林水産省農林水産技術会議事務局・(財)日本色彩研究所監修『新版 標準土色帖』2000年版を基に観察した。

図版No.	出土トレンチ	出土遺構 出土位置	出土層位	器種	遺存	法量など (cm)	胎土 (混入物)	色調	焼成	成形・調整など	備考
①	7-2 T	土器溜り1	包含層(VI)	甕	1/4	口(182) 最大径(21.1)	礫(中)多混・金雲母	黒 N 1.5/	堅	内外面とも口縁部はナデ体部はハケ	外面口縁部~体部にかけて煤附着
②	7-2 T	土器溜り1	包含層(VI)	甕	1/3	口(210)	礫(中)多混・長石(中)	灰黄褐 10YR 5/2	堅	内外面とも口縁部はナデ口縁部~体部にかけてハケ	外面口縁部~体部にかけて煤附着
③	7-2 T	土器溜り1	包含層(VI)	器台	2/3	受(91) 脚底11.3 高7.5	細礫・金雲母	灰黄 2.5Y 7/2	堅	内外面丁寧なヘラミガキ	赤彩を施していた跡が見受けられる 透かし孔数3
④	7-2 T	土器溜り2	包含層(VI)	小型鉢	1/7	口(122)	白色粒子・海針	灰黄褐 10YR 5/2	堅	内外面ともハケの後ヘラミガキ	
⑤	7-2 T	土器溜り2	包含層(VI)	甕	1/4	口(206) 最大径(22.0)	白色粒子・金雲母・石英・細礫	灰黄褐 10YR 5/2	堅	内外面とも口縁部ハケの後ナデ体部はハケ	外面口縁部と体部の境あたりに煤附着 内面体部中央より下部に煤附着
⑥	7-2 T	土器溜り2	包含層(VI)	甕	1/4	口(236)	白色粒子・金雲母・海針・石英	黒 5Y 2/1	堅	内外面とも口縁部ナデ体部ハケ	外面全体に煤附着
⑦	7-2 T	土器溜り2	包含層(VI)	小型鉢	1/4	口(92) 高(6.1)	海針多混・白色粒子・石英	にぶい褐 7.5YR 3/1	堅	内外面とも丁寧なヘラミガキ	
⑧	7-2 T	土器溜り2	包含層(VI)	器台	1/4		石英・黒雲母	灰黄 2.5Y 7/2	堅	内外面ともヘラミガキ	
⑨	7-2 T	土器溜り2	包含層(VI)	壺	1/10	口(192)	石英・金雲母	褐灰 10YR 5/1	堅	外面ナデ・内面ヘラミガキ	
⑩	HG 1 T	S 1 1	1層	壺	1/8	口110	白色粒子	灰黄褐 10YR 6/2	堅	内外面とも丁寧なヘラミガキ 外面赤彩・内面口縁部上部に赤彩	
⑪	HG 1 T	S 1 1	1層	小型鉢	1/2	口(103) 最大径(12.1) 高(6.3)	精良・長石(細)	にぶい黄橙 10YR 7/4	堅	内外面とも口縁部ナデ体部丁寧なハケ	赤彩の痕跡がやや見受けられる
⑫	HG 1 T	S 1 1	2層	壺	1/8	口210	精良・礫(細)・石英	淡黄 2.5Y 8/3	堅	外面丁寧なヘラミガキ内面丁寧なナデ	外面赤彩
⑬	HG 1 T	S 1 1	3層	高坏	1/3	脚底(14.3)	精良・海針多混・石英・礫(細)	浅黄 2.5Y 7/3	堅	外面ヘラミガキ内面ハケの後ヘラミガキ	外面赤彩
⑭	HG 1 T	S 1 1	3層	器台	3/4	受(82) 脚底10.7 高7.1	石英・礫(細)	明赤褐 5YR 3/6	堅	外面丁寧なヘラミガキ内面丁寧なナデ	内外面赤彩 透かし孔数3
⑮	HG 1 T	S 1 1	4層	甕	1/6	口(200)	金雲母・礫(細)	にぶい黄褐 10YR 5/3	堅	口縁部は内外面ともナデ体部外面ハケ 体部内面はナデ	
⑯	HG 1 T	S 1 1	1層	甕	1/10	口(150)	石英・礫(細)	黒 10YR 2/1	堅	内外面ともハケ	
⑰	HG 1 T	S X 2	1層	甕	1/4	口(162) 最大径(20.0)	礫(細)	暗灰黄 2.5Y 5/2	堅	内外面ともハケ	外面口縁部~体部にかけて煤附着
⑱	HG 1 T	1 d	黒色砂層(X)	壺	1/8	口(80)	海針多混	にぶい黄 2.5Y 6/3	堅	内外面ともヘラミガキ	
⑲	HG 1 T	2 c	黒色砂層(X)	高坏?	1/5	口(160)	金雲母・長石(細)・石英(細)	にぶい黄橙 10Y 6/3	堅	内外面とも丁寧なヘラミガキ	器種は不明瞭
⑳	HG 1 T	3 b	黒色砂層(X)	甕	1/10	口(168)	精良・白色粒子	浅黄 2.5Y 7/3	堅	内外面とも口縁部ナデ体部ハケ	
㉑	HG 1 T	5 a	褐色砂層(Ⅷ)	甕	1/8	口(242)	海針少混・礫(細)	にぶい黄橙 10Y 6/4	堅	外面口縁部ハケ・ナデ内面口縁部~体部ハケ	
㉒	HG 1 T	5 a・5 b	褐色砂層(Ⅷ)	鉢	ほぼ完存	口17.6 高9.8	海針・金雲母・石英少混・礫(中)少混	黒 10Y 2/1	堅	内外面とも口縁部ハケの後ナデ 体部は内外面ともハケの後粗いミガキ	
㉓	HG 1 T	6 a	包含層(VI)	壺	1/8	口(186)	白色礫(中)少混	にぶい黄橙 10Y 7/2	堅	内外面とも丁寧なヘラミガキ	内面に被熱によると思われる器壁の剥離痕多数
㉔	HG 1 T	7 a	包含層(VI)	器台	2/3	脚底10.4	海針多混・石英・礫(中)少混	にぶい黄橙 10Y 7/3	堅	外面ヘラミガキ 内面ハケの後ナデ	透かし孔数3
㉕	HG 1 T	- 1 z	黒色砂層(X)	甕	1/10	口(260)	海針多混・精良	黒褐 5YR 3/1	堅	外面丁寧なハケ 内面丁寧なヘラミガキ	壺の可能性もある
㉖	HG 1 T	12a 14a 16a	包含層(VI)	甕	1/2	口13.6 最大径15.8 底3.6 高17.2	石英・白色粒子	黒褐 5YR 3/1	堅	内外面とも口縁部ナデ体部ハケ	外面口縁部~体部にかけて煤附着
㉗	C 1 3 T	—	包含層(VI)	甕	1/4	口(205) 最大径(21.4)	海針多混	黒 7.5Y 2/1	堅	内外面とも口縁部ナデ体部ハケ	外面口縁部~体部にかけて煤附着
㉘	7-2 T	a	包含層(VI)	甕	細片		金雲母・石英・白色粒子	黒 10YR 5/1	堅	内外面とも口縁部ナデ 口縁部に注口を呈すると思われる調整がみられる	

凡例

	調査地対象		第1期調査トレンチ
	A~E地区割境界線		第1期調査遺物出土トレンチ
	市道建設地		第2期調査トレンチ
	当該調査で確認された東園遺跡の範囲		第2期調査遺物出土トレンチ
	平成12年度本格調査予定地		縄文時代の遺物出土トレンチ
通積・遺物検出トレンチ		7-2T・HG1T・B12T・C53T	
その他		HG3Tは古墳時代の遺物が、HG7Tは時代は不明であるが遺構が検出された	

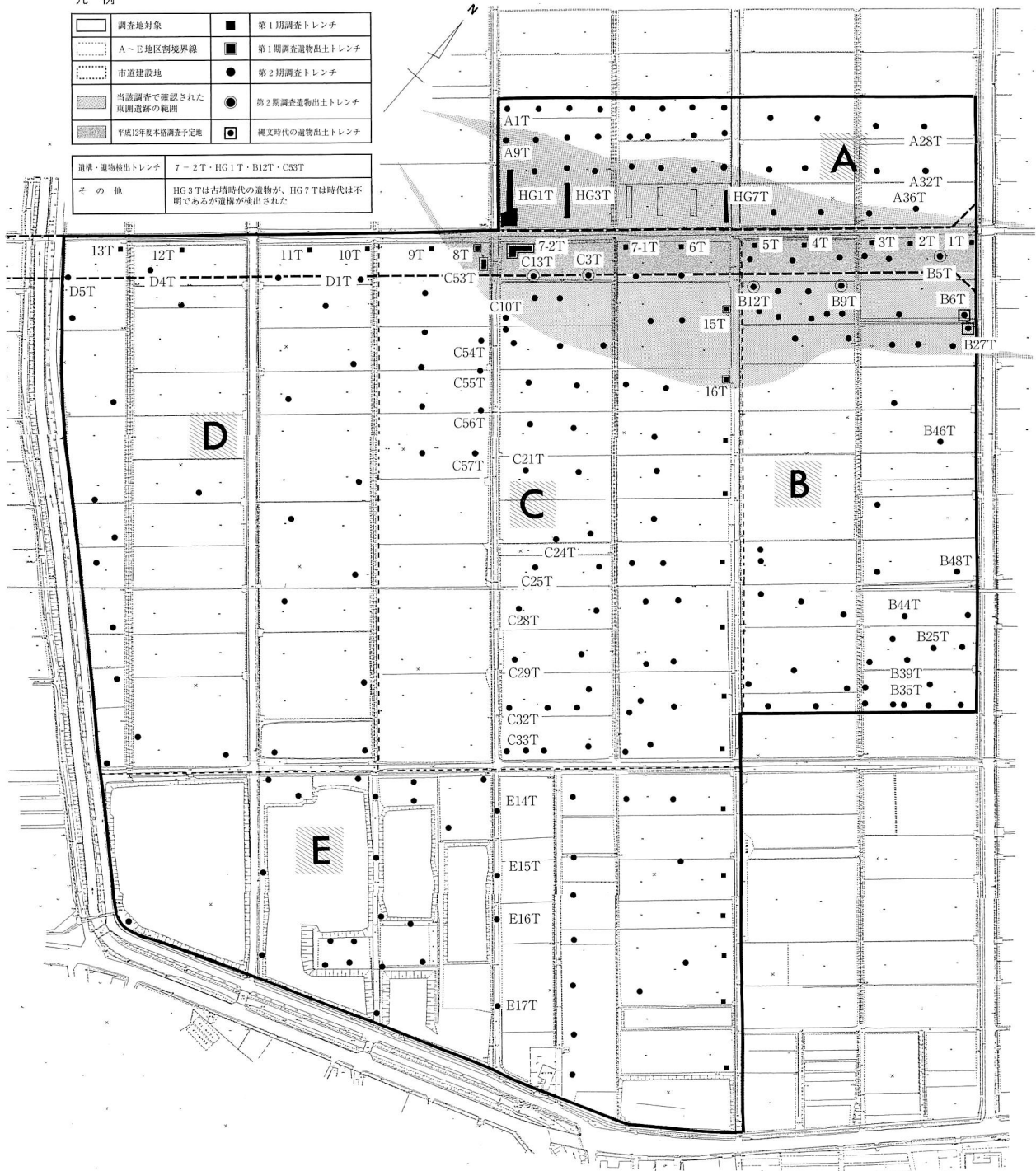


図1 トレンチ配置図 (S = 1 / 4,000)

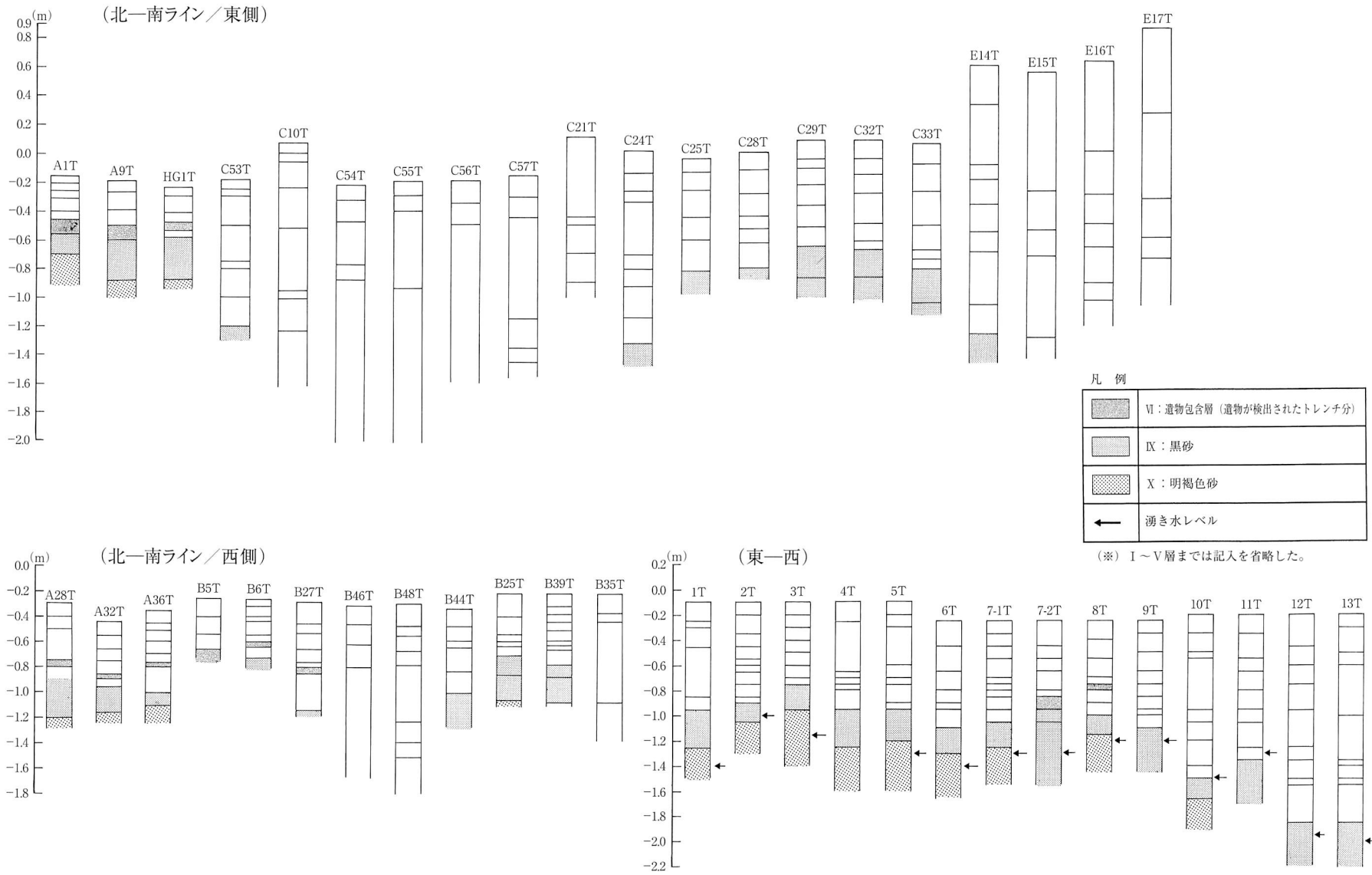


図2 土層柱状図

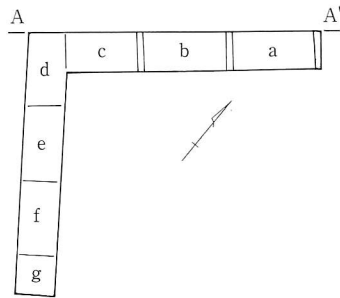


図3-1 7-2Tグリッド構成図 (S=1/300) グリッド: 1.5m×3m

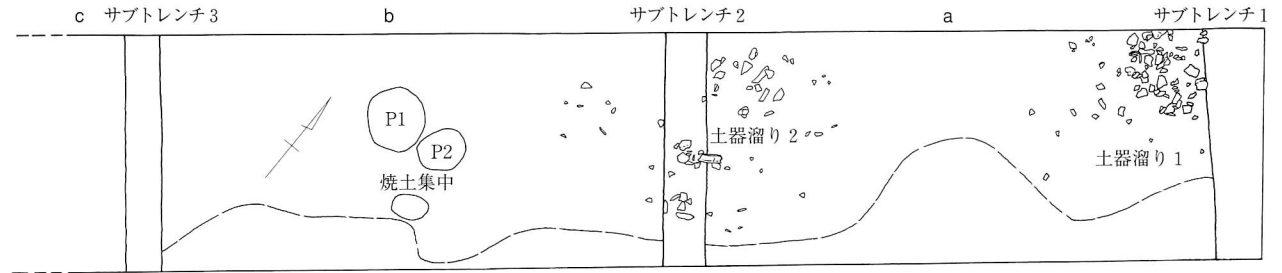


図3-2 7-2T遺物出土状況 (S=1/50) 破線を堺に遺物包含層の色調がやや変わる

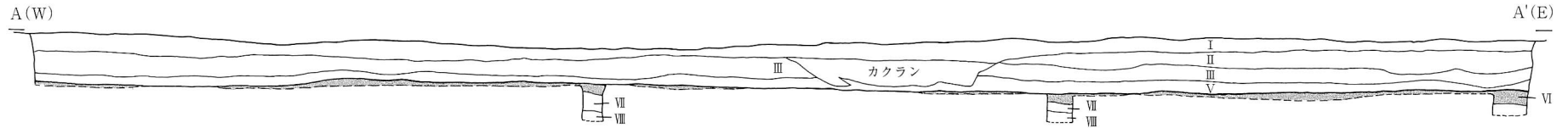


図3-3 7-2T土層堆積状況図 (S=1/50) A-A': -0.345m

土層注記

I層	暗褐色土	水田耕土
II層	褐色粘土	水田床土
III層	灰褐色粘土(腐食植物層): 生木・腐食植物入るもほとんどが粘土層	いわゆるガツゴ層①
IV層	暗褐色粘土(腐食植物層): 生木・流木・腐食植物ばかりの層	いわゆるガツゴ層②
V層	灰白色粘土	
VI層	黒褐色粘質砂: 遺物包含層 南側へ行くほど粘性が強くなり、色調も茶が濃くなる。	古墳時代前期の遺物包含層
VII層	灰色粘土: 砂盤の標高が高いところでは砂が混ざる。それ以外は粘土	
VIII層	黒褐色粘土混砂: IX層の漸移層	
IX層	黒色砂層	B地区では古墳前期・縄文時代の遺物が検出
X層	黄灰色砂層	

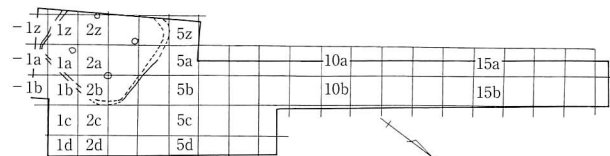


図4-1 HG1Tグリッド構成図 (S=1/500) グリッド: 2m×2m

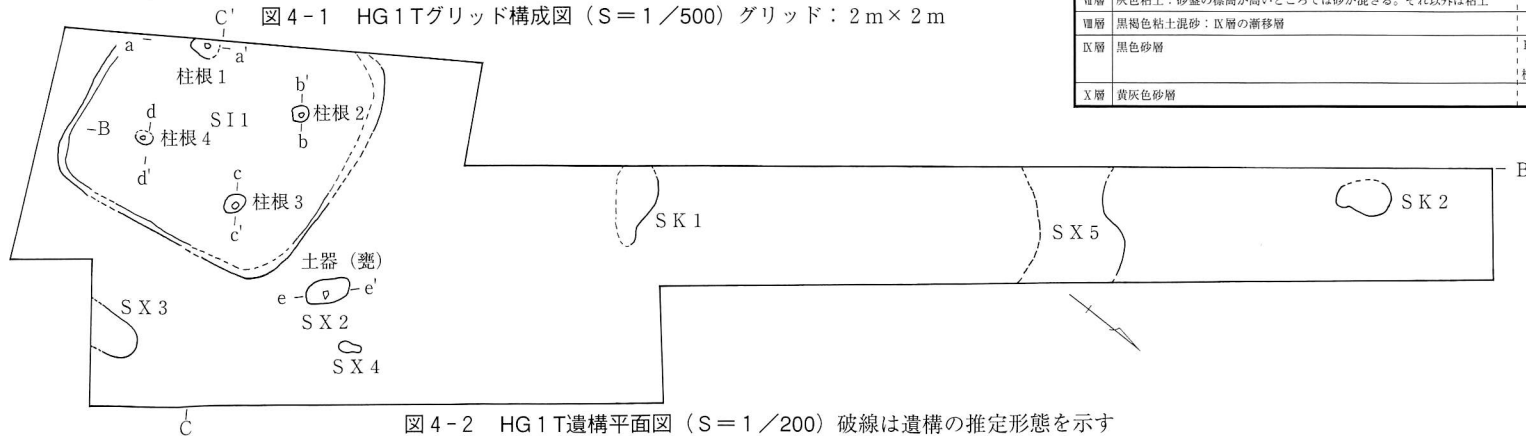
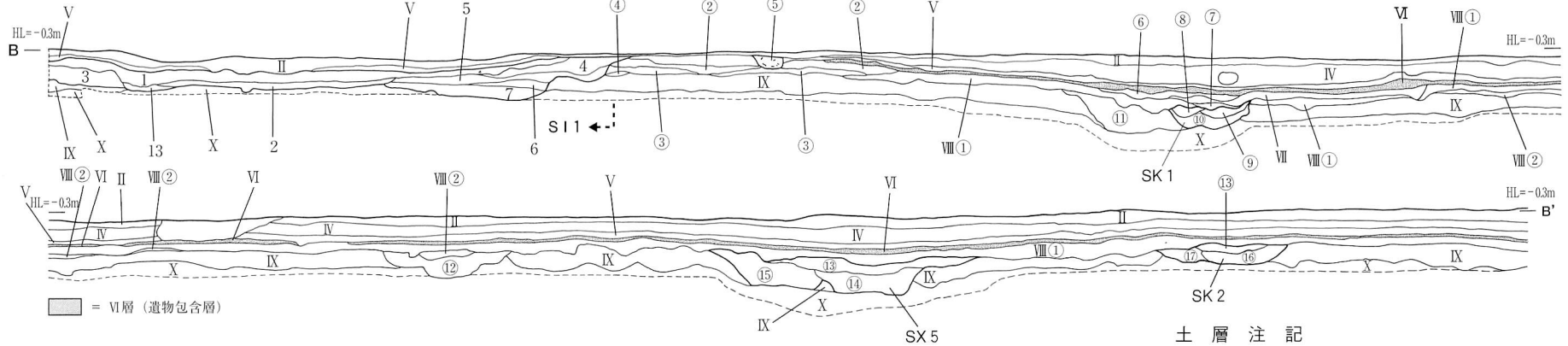
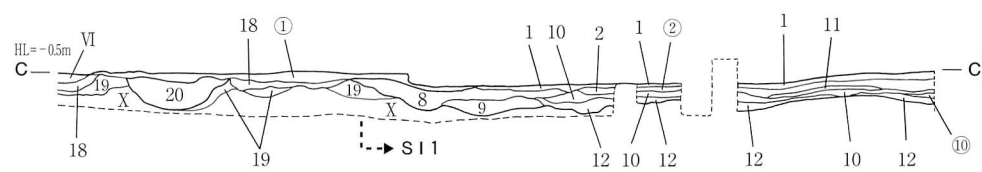


図4-2 HG1T遺構平面図 (S=1/200) 破線は遺構の推定形態を示す

HG 1 T南北セクション (東から) S = 1/40



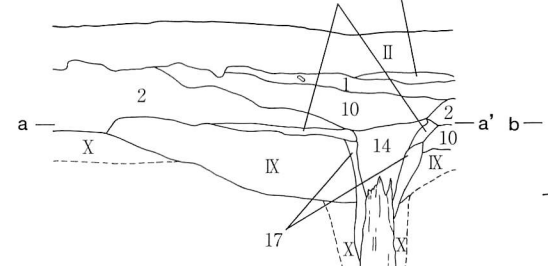
HG 1 T東西セクション (北から) S = 1/40



SX 2 南北セクション (東から) S = 1/40

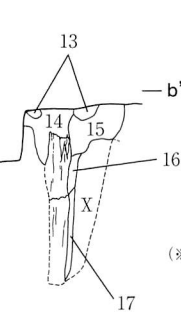


柱根 1 (東から)

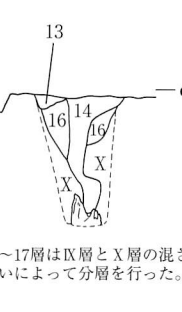


(※) 柱根 1~4 S = 1/20  
HL = -0.7m

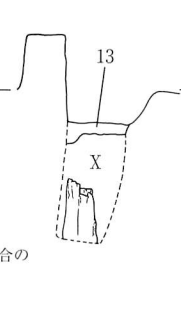
柱根 2 (南から)



柱根 3 (東から)



柱根 4 (東から)

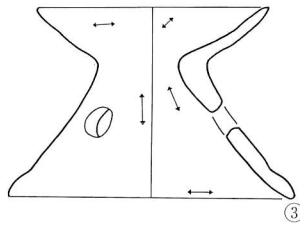
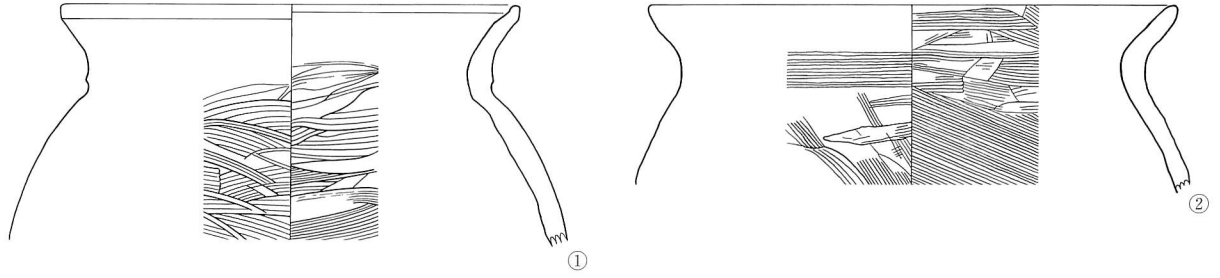


(※) 13~17層はIX層とX層の混ざり具合の  
違いによって分層を行った。

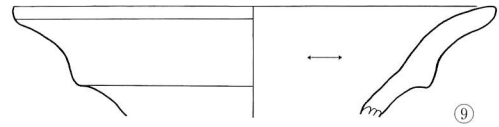
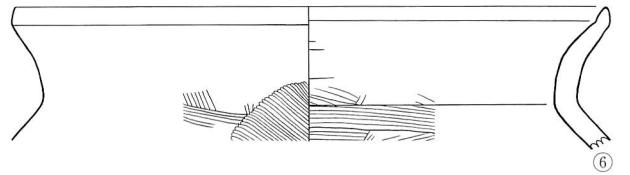
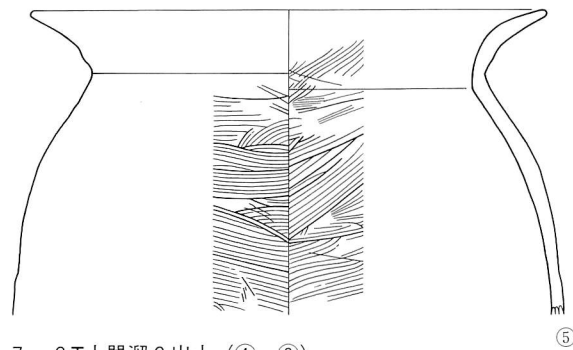
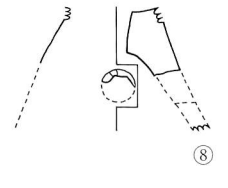
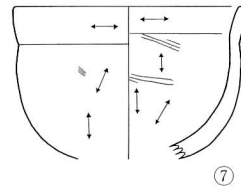
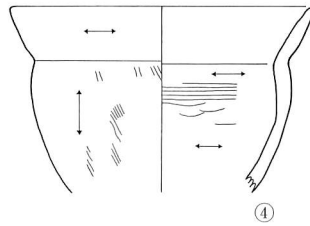
土層注記

層位	色調	種類	土質	備考
I	暗褐色	土	水田耕土	
II	灰~暗青灰色	粘土	水田床土	
III	灰黄緑~褐灰色	粘土	流木・生木・腐食植物少量はある	
IV	茶緑~黒褐色	粘土	流木・生木・腐食植物ばかりの層	いわゆるガツ層
V	灰白~黄灰色	粘土	粘性強い。しまり強い。	
VI	黒褐色	粘質砂	砂質が強い。礫層と粘質が強い層とがある。また遺物が多量に出る箇所は炭化物が多含まれる。	古墳時代前期の遺物包含層
VII	灰白色	粘土	粘性強い。しまり強い。やや砂が混ざる。	
VIII①	暗褐色	粘質砂	粘土少量混ざる。腐食植物やや混ざる。	
VIII②	オリーブ褐色	砂		埋り層から直層の遷移層と思われる
IX	黒色	砂	しまり強い。	
X	にぶい黄褐色	砂	粒子細かい。しまり強い。	
①	灰青褐色	砂	炭化物 (3~5mm) 散見する	
②	暗灰色	砂	粘性やや有り	
③	暗灰黄色	粘質砂	粘性強い	
④	暗灰黄色	砂	③層がIX層に染み込んだもの。粘性やや有り	
⑤	暗褐色	砂	炭化物 (5~10mm) 散見する。	ピット状の遺構と思われる
⑥	灰色	粘土	礫物の混入する	
⑦	暗褐色	砂	VII層にIX層・X層が塊状に入る	
⑧	暗褐色	砂	VII層にIX層が塊状に入る	SK 1
⑨	黒褐色	粘質砂	粘性強い	SK 1
⑩	黒色	砂	粘性有り	SK 1
⑪	黒褐色	砂	しまり極めて強い	遺構か
⑫	黒褐色	砂		
⑬	暗灰黄色	粘質砂	粘性強い	SX 5
⑭	黒色	砂	木や木根が入る	SX 5
⑮	黒褐色	砂	木や木根多量に入る	SX 5
⑯	黒色	砂		
⑰	暗褐色	砂		
⑱	暗褐色	砂	粘性やや有り	
⑲	にぶい黄褐色	砂	X層が混ざる	
⑳	黒褐色	砂		遺物出土。遺構と思われる

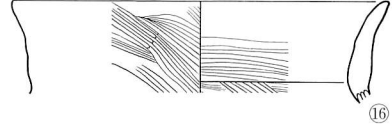
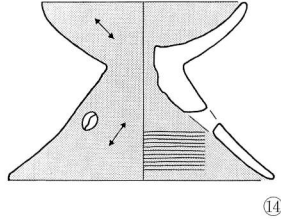
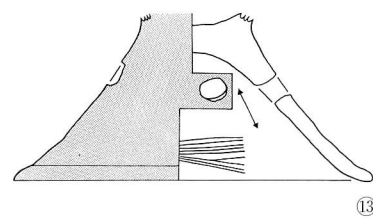
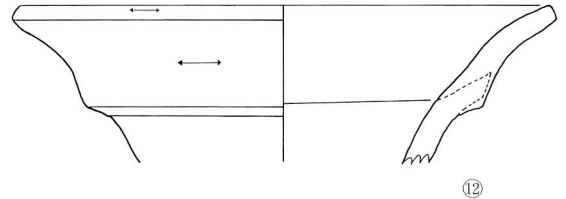
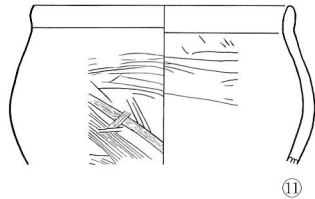
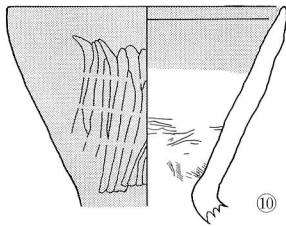
層位	色調	種類	土質	備考	
S 1 1	1	黒褐色	粘質砂	粘性弱い。住居前に溜まった層。周辺に比して遺物の出土量が多かった。V層と比べて取り残す	遺物多量出土
	2	暗褐色	砂	VII層に黒褐色粘質砂 (1層と思われる) が塊状に入る	遺物出土
	3	灰青褐色	砂	しまり強い	遺物多量出土
	4	暗褐色	砂	粘性弱。しまり強。炭化物 (3~5mm) 散見す	遺物出土
	5	暗褐色	砂	しまり強。炭化物 (5mm) 散見す	遺物出土
	6	黒褐色	砂	粘性微弱。しまり強	遺物ナシ
	7	暗褐色	砂	しまり強	遺物出土
	8	暗褐色	砂	炭化物 (5mm) 散見す	断面でのみ確認。平面的には調査しなかった
	9	暗褐色	砂	しまり強	遺物出土
	10	にぶい黄褐色	砂	しまり極めて強い	断面でのみ確認。平面的には調査しなかった
	11	暗褐色	砂	しまり極めて強い	遺物出土
S X 2	1	黒褐色	砂	しまり極めて強い。黒砂と炭化物が混ざり合っておりとした砂塊状の層。遺物はこの直上層から出土。床面と考えられるが、人為的なものが水気等の原因によるものか不明	断面でのみ確認。平面的には調査しなかった
	2	灰青褐色	砂	しまり強。炭化物 (10~25mm) 30%程度入層の下部にすり鉢状に炭化物が散らる	遺物17出土



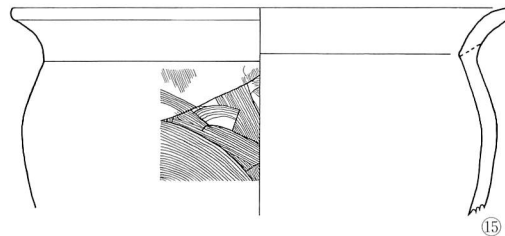
7-2T土器溜1出土 (①~③)



7-2T土器溜2出土 (④~⑨)



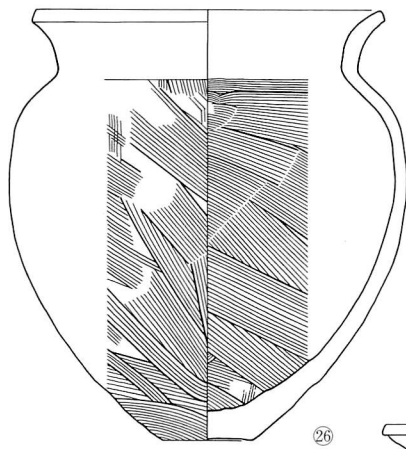
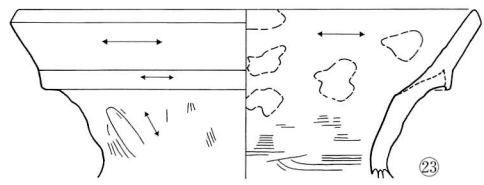
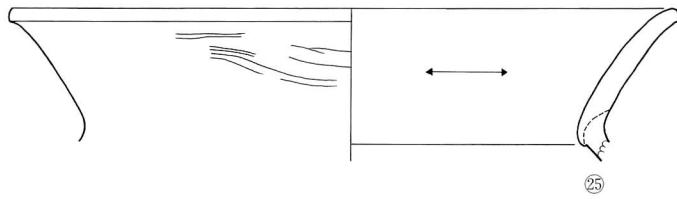
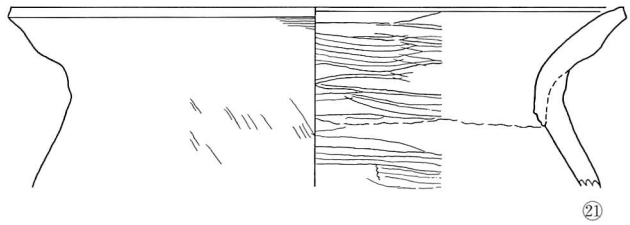
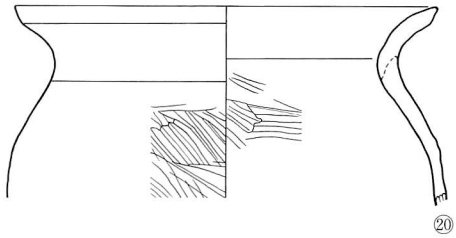
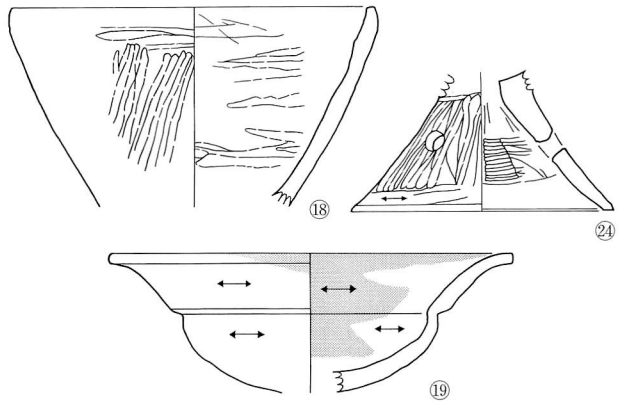
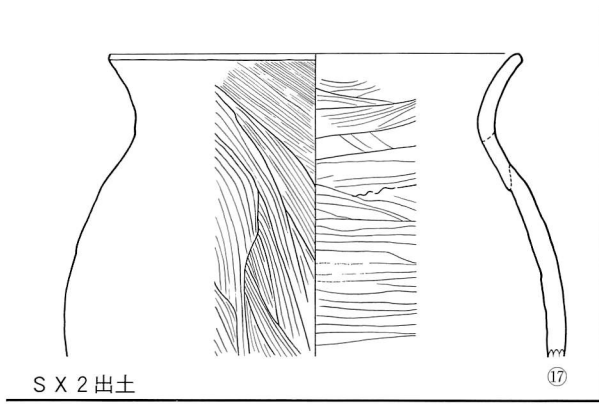
S11出土 (⑩~⑬)



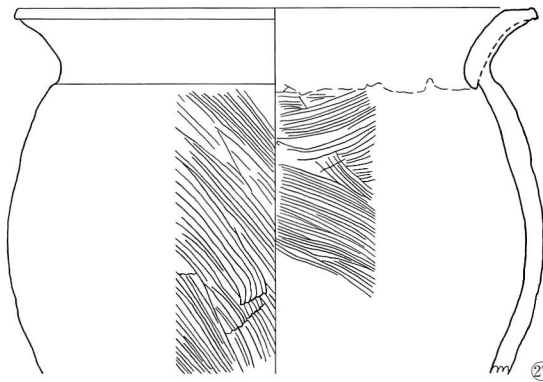
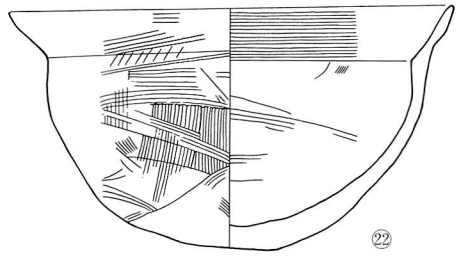
0 10 (cm)  
(S=1/3)

(※) アミ点は赤彩を示す



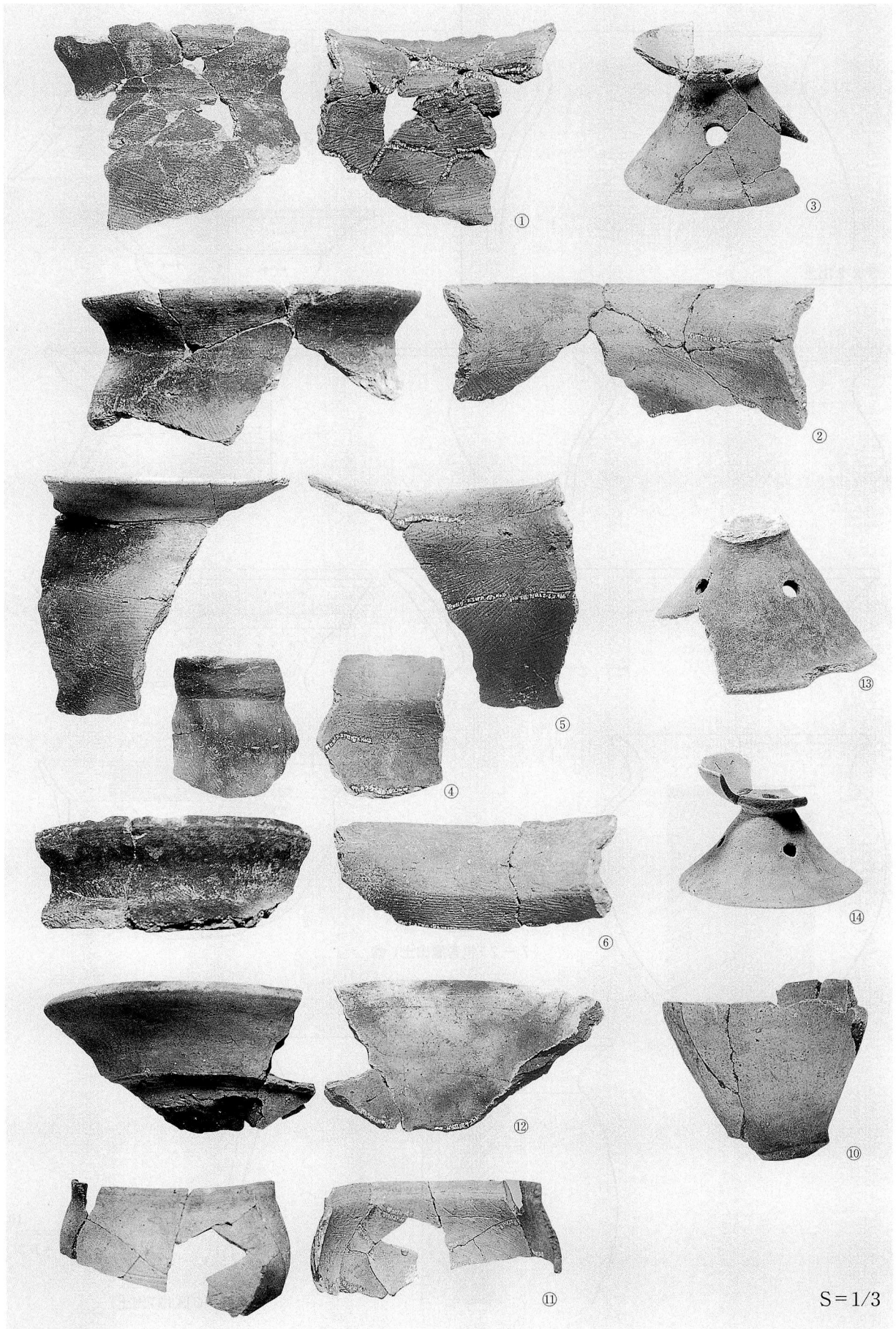


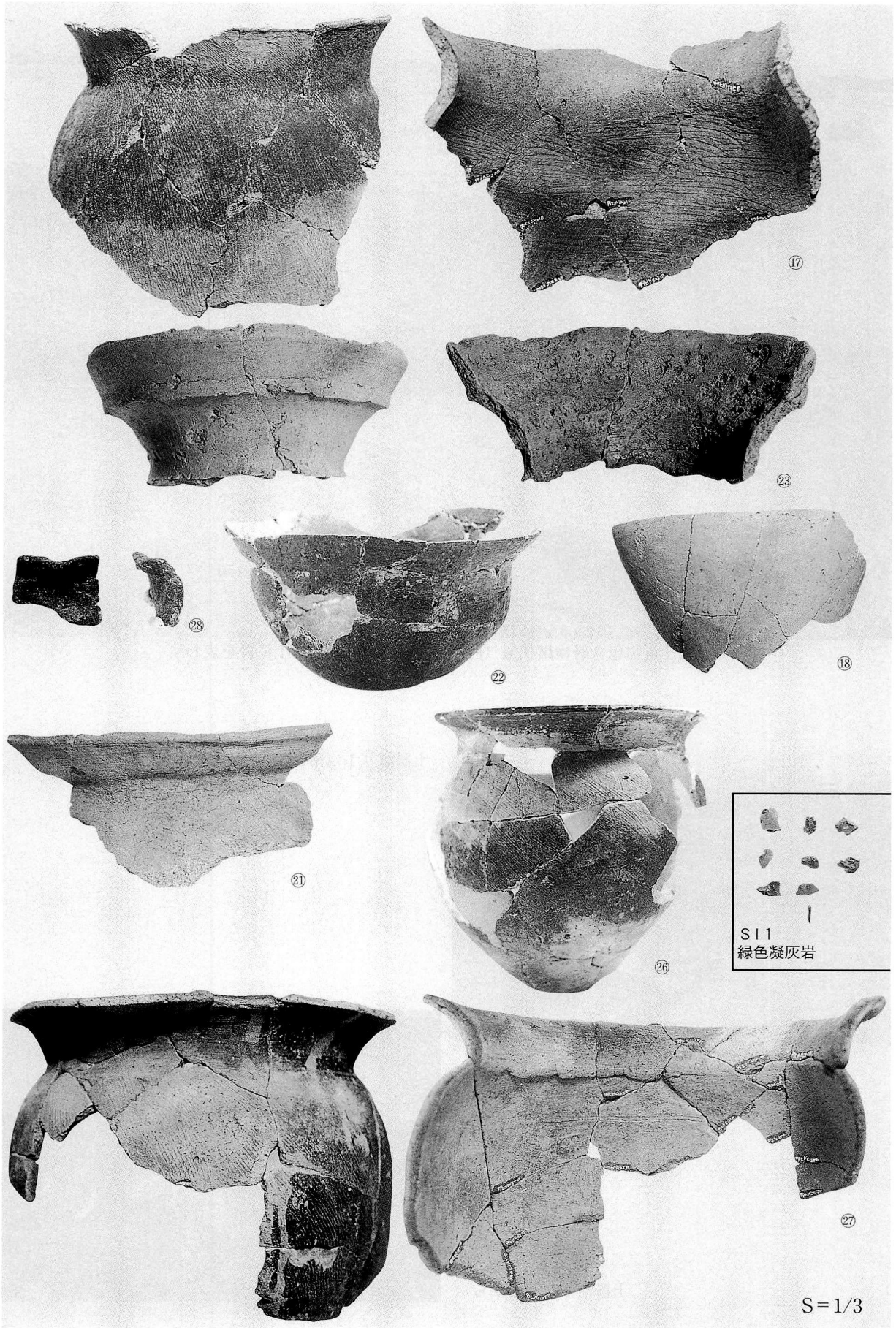
(7-2T包含層出土) 28



0 10 (cm)  
(S = 1/3)

(C区13T出土)









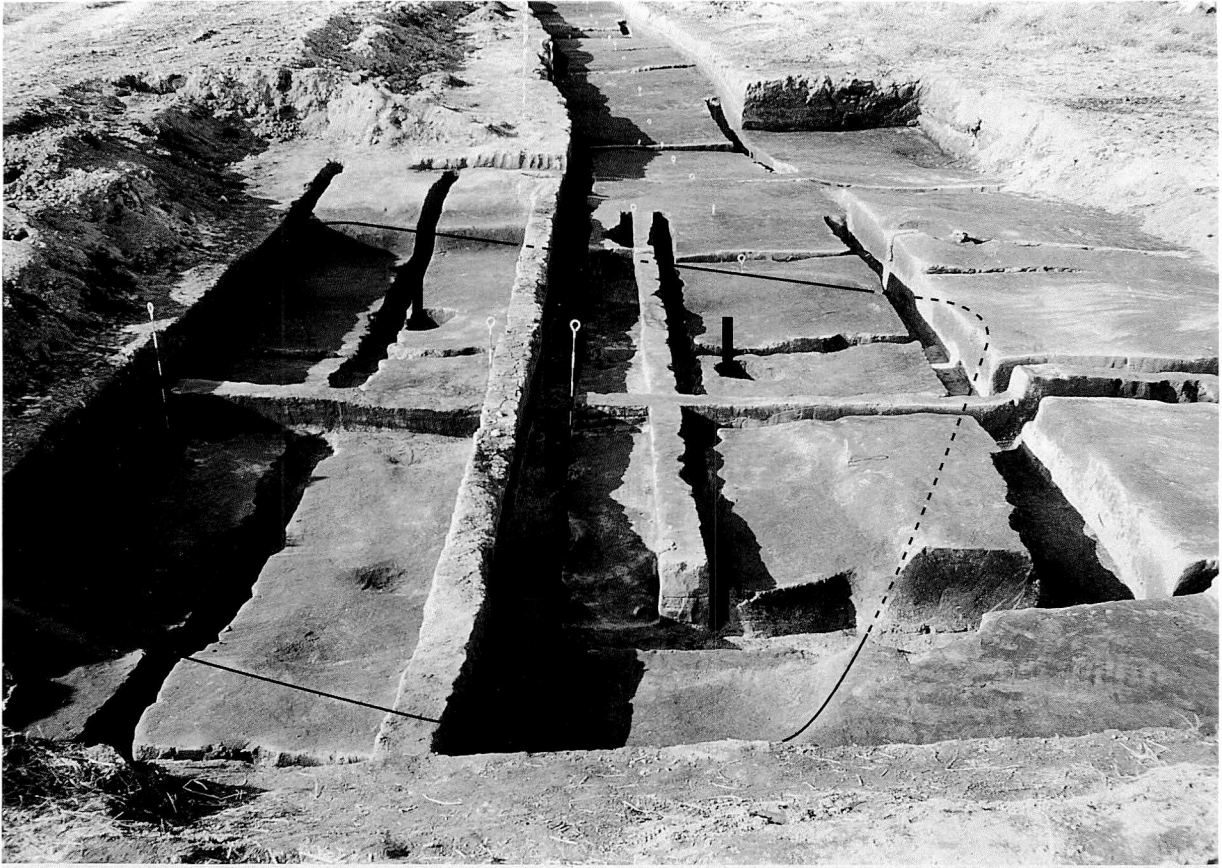
7-2T遺物包含層検出状況（西から） 竹串は遺物出土位置を表わす



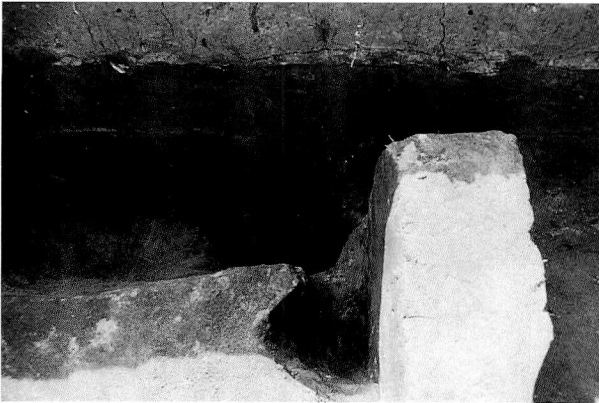
土器溜り1（南から）



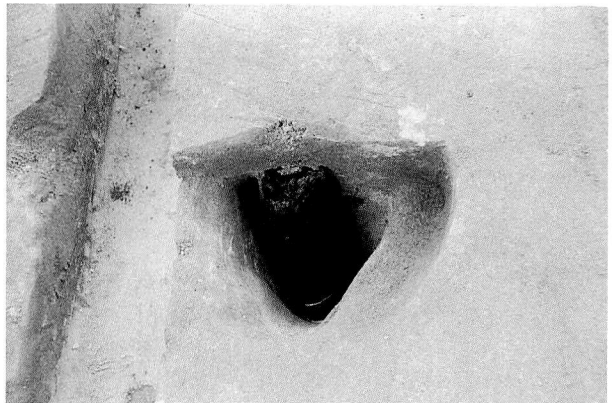
土器溜り2（西から）



HG1 T調査状況 SI1を中心に（南から）



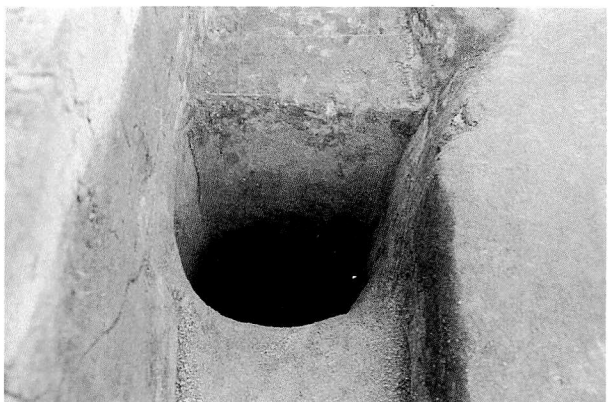
SI1 柱根 1 検出状況（南東から）



SI1 柱根 2 検出状況（南から）

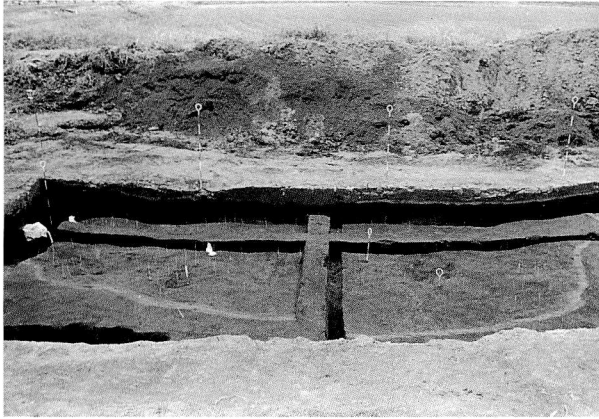


SI1 柱根 3 検出状況（南から）

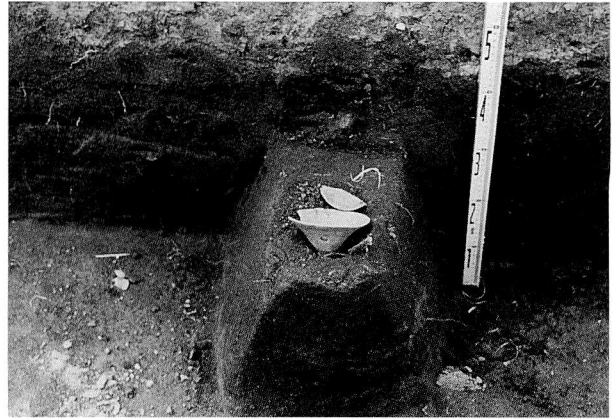


SI1 柱根 4 検出状況（南から）





SI1 1層中遺物出土状況（北東から）



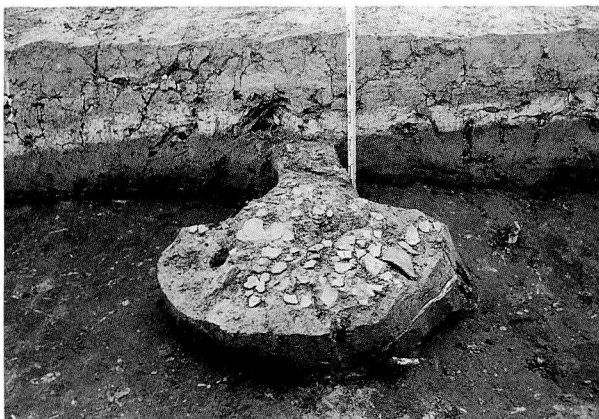
SI1 器台 (14) 出土状況（北から）



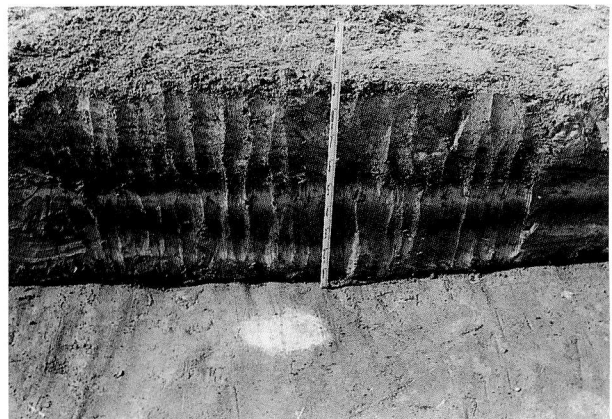
SX2 甕 (17) 出土状況（北東から）



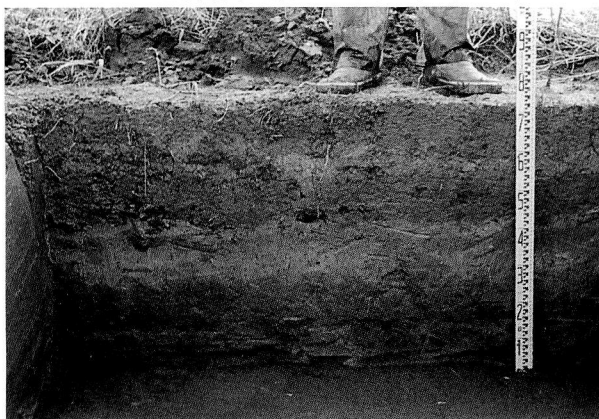
HG1T6a包含層中器台 (24) ほか出土状況（東から）



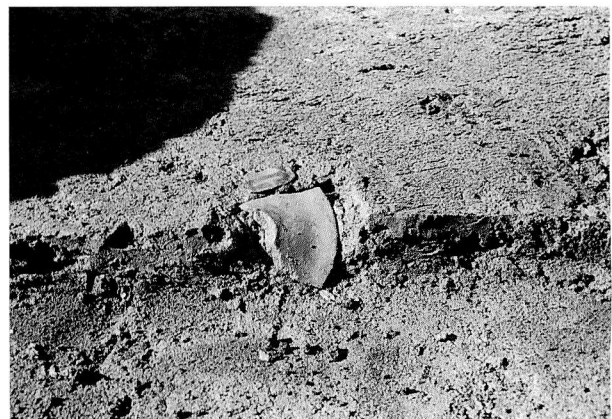
HG3T包含層中遺物出土状況（南東から）



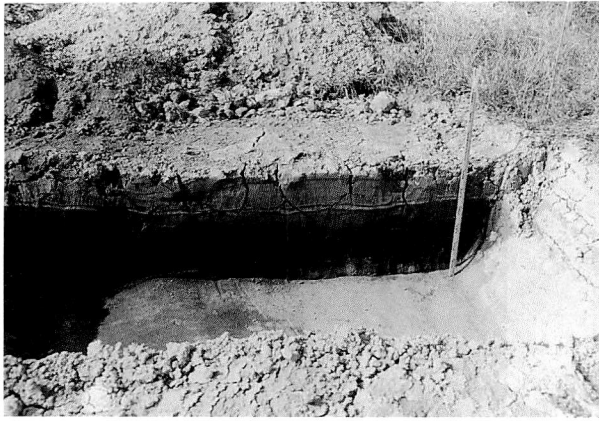
C53T遺構検出状況（北から）



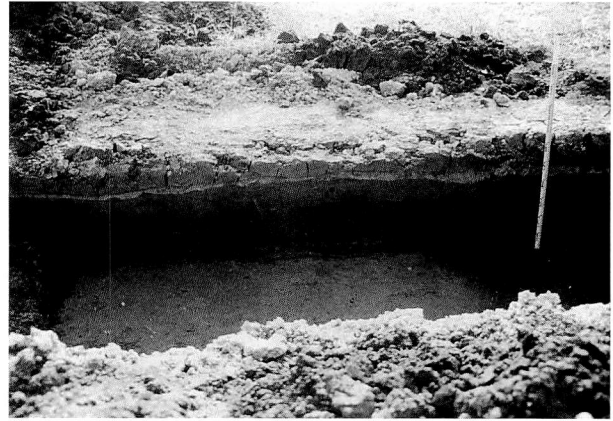
B5T土層堆積状況（西から）



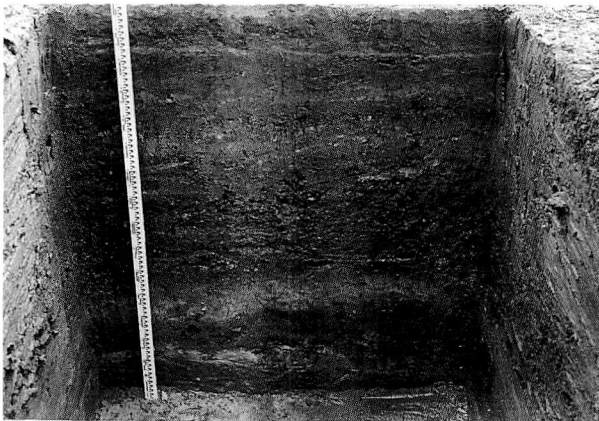
B5T遺物出土状況（北から）



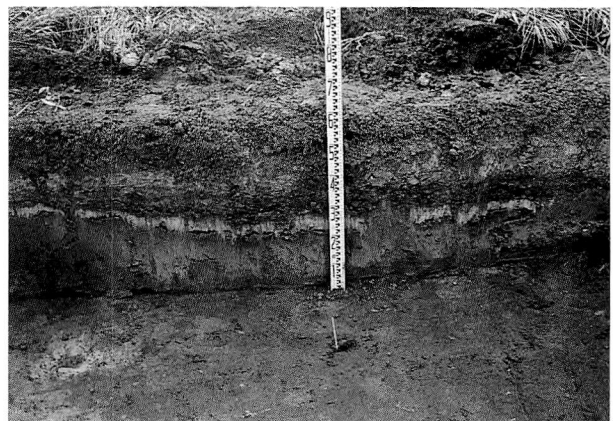
A1T (北東から) スタッフの0.45m付近が黒砂確認面



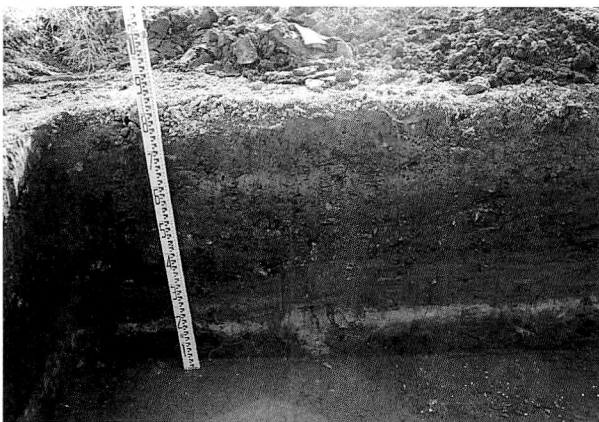
A32T (北東から) スタッフの0.45m付近が黒砂確認面



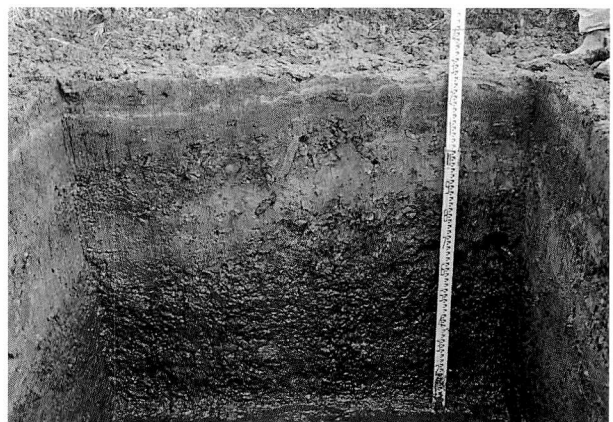
C21T (南東から) スタッフの0m付近が黒砂確認面



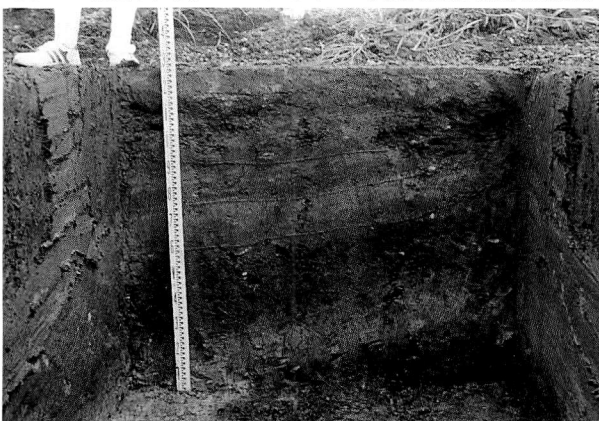
B6T (北東から) 黒砂上縄文土器片出土状況



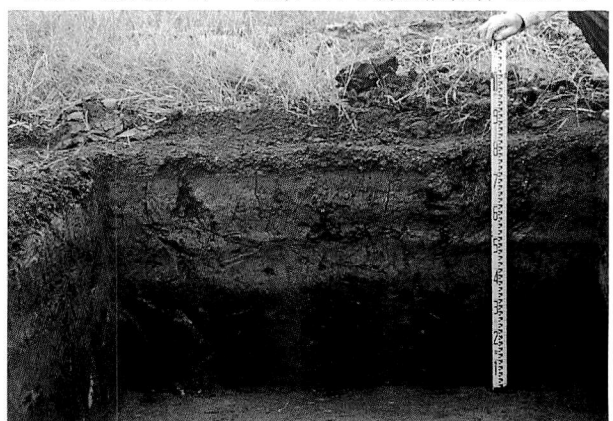
C32T (南東から) スタッフの0m付近が黒砂確認面



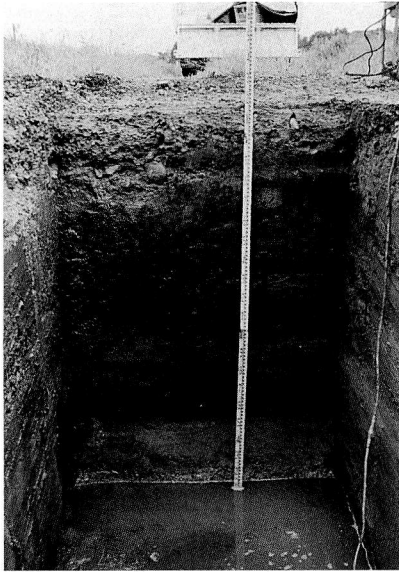
B46T (南東から) 湧水のため腐食植物層で止める



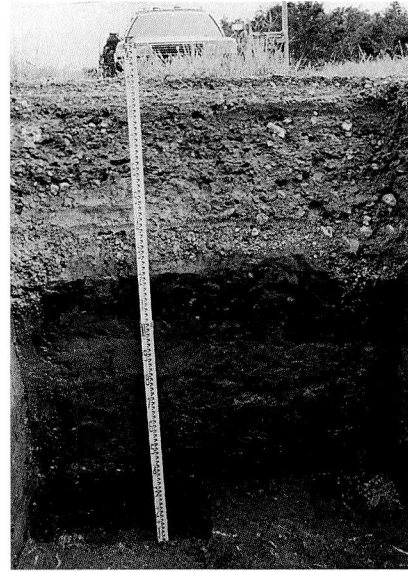
D5T (南東から)



B39T (北東から) スタッフの0.3m付近が黒砂確認面



E14T (南西から)  
スタッフの0.7m付近が黒砂確認面



E17T (北西から)  
スタッフの0m付近が黒砂確認面

#### 引用文献

- 文献1 新潟市 1994 『新潟市史 資料編1』
- 文献2 酒井和夫 1978 「新潟市の遺跡の現状と新発見」
- 文献3 酒井和夫 1979 「新潟市の遺跡包蔵地について」『昭和54年度新潟市文化財調査資料』新潟市教育委員会
- 文献4 新潟市教育委員会 1994 『市内遺跡発掘調査報告書』
- 文献5 新潟市教育委員会 1998 『埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 文献6 新潟市教育委員会 1999 『埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 文献7 新潟市合併町村史編纂室 1980 『新潟市合併町村の歴史 第4巻』 新潟市

#### 参考文献

- 新潟市合併町村史編纂室 1986 『新潟市合併町村の歴史 第3巻』 新潟市
- 吉岡康暢 1989 『日本海域の土器・陶磁 [中世編]』 人物叢書10 六興出版
- 北陸中世土器研究会編 1997 『中・近世の北陸 考古学が語る社会史』 桂書房
- 鈴木俊成ほか 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集 一之口遺跡東地区』 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥ほか 1989 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集 山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会
- 田嶋明人 1986 「漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡Ⅰ』 石川県立埋蔵文化財センター
- 渡辺ますみほか 1994 『緒立C遺跡発掘調査報告書』 黒埼町教育委員会



報告書抄録

ふりがな	へいせい11ねんどうしなしいせきはつくつちようさほうこくしょ							
書名	平成11年度市内遺跡発掘調査報告書							
編著者名	朝岡政康							
編集機関	新潟市埋蔵文化財センター							
所在地	〒951-3101 新潟県新潟市太郎代2554番地							
発行年月日	西暦2000年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とやのいせき 鳥屋野遺跡	にいがたけん にいがたし 新潟県新潟市 とやの 鳥屋野	15201	79	37度 53分 14秒	139度 01分 35秒	19990517 ～ 19990518	45	宅地造成（民間）に伴う確認調査
ひがしかいせき 東囲遺跡	にいがたけん にいがたし 新潟県新潟市 みよがたにちない 茗荷谷地内	15201	114	37度 53分 01秒	139度 07分 58秒	19990608 ～ 19991022	900	新卸売市場建設工事に伴う試掘調査及び確認調査
てらやまいせき 寺山遺跡	にいがたけん にいがたし 新潟県新潟市 てらやま 寺山	15201	20	37度 54分 57秒	139度 06分 48秒	19990930	38	賃貸住宅建設に伴う確認調査
にしのいせき 西野遺跡	にいがたけん にいがたし 新潟県新潟市 にしのあざしんどおり 西野字新通	15201	38	37度 53分 49秒	139度 07分 44秒	19991007	4	東北電力送電線鉄塔建て替え工事に伴う確認調査
ざるがば いせき 猿ヶ馬場A遺跡	にいがたけん にいがたし 新潟県新潟市 ひがしなかのやま 東中野山	15201	15	37度 54分 12秒	139度 07分 07秒	19991019	3.9	駐車場建設に伴う確認調査
ざるがば いせき 猿ヶ馬場A遺跡	にいがたけん にいがたし 新潟県新潟市 ひがしなかのやま 東中野山	15201	15	37度 54分 12秒	139度 07分 07秒	19991019	6	賃貸住宅建設に伴う確認調査
にしのいせき 西野遺跡	にいがたけん にいがたし 新潟県新潟市 おおふちあざなかざわうみ 大淵字中沢海	15201	38	37度 53分 49秒	139度 07分 44秒	19991117 ～ 19991125	111	県営ほ場整備事業に伴う確認調査及び試掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
鳥屋野遺跡	包含地	中世				中世陶器 （珠洲焼など） 4点 木製品 7点		
東囲遺跡	包含地	縄文・古墳前期		住居跡 1基 性格不明遺構 4基 土坑 2基 土器溜まり 2基 ピット数基		縄文土器 土師器 平箱10箱 柱根 4本		大規模開発に伴う試掘調査によって新発見された遺跡（新潟市遺跡No.114）
寺山遺跡	散布地	平安						
西野遺跡	包含地	平安						
猿ヶ馬場A遺跡	包含地	平安・室町		性格不明遺構 3基		中世陶器 （珠洲焼） 1点 近世陶器 1点 砥石 1点		

平成11年度埋蔵文化財  
発掘調査報告書

発行日 平成12年3月31日  
 発行 新潟市教育委員会  
 新潟市  
 新潟市学校町通1番町602番地1  
 〒951-8550 電話 (025)228-1000  
 印刷 (有) 太陽印刷所  
 新潟市和合町2丁目4番18号  
 〒950-0985 電話 (025)382-7651